

事實に鑑み追肥は晩くも生長旺盛の時節以前に於て吸收利用せらる様注意して施用せざるべからず若し施肥の期節晩きに過れば生長漸減の時に及んで却て其勢力を増し或は伸長停止の時節遅延し爲めに枝幹軟弱となり寒傷其他の障害に罹り易きに至るへし
 今各年に於ける伐截發芽伸長停止の日時竝に全伸長の一覽表を示せば左の如し

種別	大正元年		明治四十四年		同四十二年	
	伐截	伸長停止	伐截	伸長停止	伐截	伸長停止
市平	五月三十一日	六月五日	六月六日	六月六日	六月三日	六月八日
多胡早生	同右	同右	同右	同右	六月四日	六月九日
節曲	同右	同右	同右	同右	同右	同右
魯桑	同右	同右	同右	同右	同右	同右
赤木	同右	同右	同右	同右	同右	同右
山中高助	六月八日	六月二十日	六月十六日	六月十六日	六月十二日	六月十六日
十文字甲	同右	同右	同右	同右	同右	同右
十文字乙	同右	同右	同右	同右	同右	同右
島之内	六月八日	同右	同右	同右	同右	同右

尙各五日毎に調査せる伸長の狀況及氣象は左の如し
 大正元年度氣象表

月日	事項	平均溫度	平均濕度	降水量	水量蒸發量	日照時間
----	----	------	------	-----	-------	------

月日	事項	平均溫度	平均濕度	降水量	水量蒸發量	日照時間
五月三十一日		六四九	七七〇	一四	二六	一四八
六月五日		七二二	六九四	一四	五〇	五五四
八月		七〇五	五四七	三〇	二六	一〇七
十		六六六	五八五	一	一九	二〇五
十五		七二三	六五九	八六	五三	七二八
十六		六五八	八九〇	〇・一	四二	三五四
二十		七一一	六九三	〇・二	五五	五二二
二十五		七二五	四九六	二・三	五四	六二五
三十		七五五	五八八	一	六七	九二二
七月五日		七五七	四八四	一	七二	九〇八
十		七七四	六六〇	一・七	六一	六一五
十五		七八一	八五八	二・二	二九	二二四
二十		七九〇	八九六	二・九	一九	〇五八
二十五		七三六	七三四	二・六	四六	五四二
三十		七七五	八三八	二・二	三九	三二二
八月四日		八二〇	七七〇	一	五四	六四三
九日		八〇一	六八三	二・二	五五	七二四
十四日		八二八	七二八	〇・八	五二	八五六

月日	平均温度	平均湿度	降水量	蒸發量	日照時間
九月 十一日	六九.八	五八.三	—	六.九	一一.四五
九月 十六日	七二.四	五七.四	三.八	五.〇	七.〇八
九月 二十一日	七〇.九	七一.六	三.四	四.七	六.五八
九月 二十六日	七〇.〇	七五.七	四.六	四.〇	八.四八
七月 一日	七〇.七	七五.六	〇.二	五.〇	七.一八
七月 六日	七三.八	七二.八	八.一	五.四	九.二八
七月 十一日	七二.五	八五.二	二七.九	〇.七	二.〇四
七月 十六日	七四.一	八八.三	一四.四	二.九	二.〇二
七月 二十一日	七九.三	八六.四	四.二	二.八	二.五三
七月 二十六日	七四.三	八一.二	一.四	三.四	四.〇六
八月 三十一日	七六.五	七八.八	〇.〇	四.六	八.二五
八月 五日	七七.九	七五.一	二.八	五.三	八.一一
八月 十日	八〇.〇	七二.八	〇.四	六.一	九.二二
八月 十五日	八三.三	六三.四	—	六.九	一〇.四三
八月 二十日	八〇.八	四七.二	—	六.七	九.二九
八月 二十五日	七四.三	七七.四	一.六	二.四	二.四二
八月 三十日	七八.一	六九.四	〇.三	五.〇	八.〇〇
九月 四日	七六.二	六九.四	—	五.八	一一.二六

備考 各日に於ける示数は前回調査の翌日より次回の調査日に至る間の平均数なり例令は六月八日の示数は同月六日、七日及八日の平均数なりとす、本年の初霜は十月七日なり

明治四十四年度氣象表

月日	平均温度	平均湿度	降水量	蒸發量	日照時間
六月 六日	七〇.二	四九.〇	—	七.二	一一.四八
六月 七日	七〇.〇	五三.〇	—	六.七	一〇.一八
九月 三日	七七.〇	六八.〇	—	五.四	八.二二
九月 八日	七二.八	八三.〇	八.六	二.〇	二.四六
九月 十三日	六三.五	五五.二	—	四.三	六.四三
九月 十八日	六六.〇	六〇.四	—	四.四	八.四七
九月 二十三日	六六.六	五四.八	—	四.八	八.二九
九月 二十八日	六二.九	六二.四	—	三.八	八.三〇
十月 三日	六六.六	五八.四	—	四.〇	六.二二
九月 十九日	七四.一	八五.四	三.四	一.二	〇.五六
九月 二十四日	七三.八	八六.六	—	三.二	三.二六
九月 二十九日	七五.九	七二.六	—	三.七	三.二二

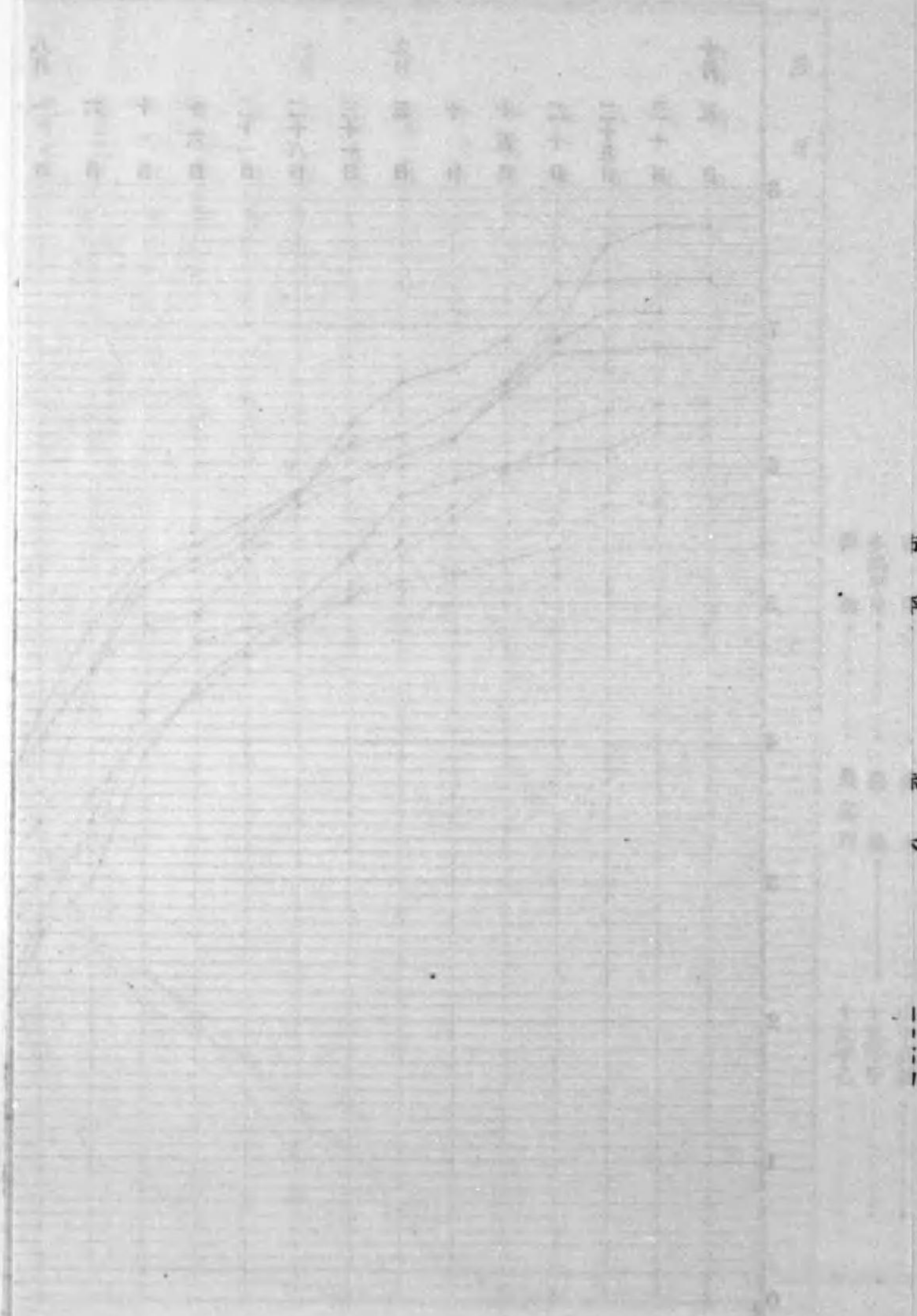
八月		七月	
九日	七	七月二日	七
十二日	七	七月七日	七
十七日	六	七月十二日	七
二十二日	七	七月十七日	七
二十七日	八	七月二十二日	七
三十一日	七	七月二十七日	七
八月一日	七	八月六日	七
八月六日	七	八月十一日	七
八月十一日	七	八月十六日	七
八月十六日	七	八月二十一日	七
八月二十一日	七	八月二十六日	七
八月二十六日	七	八月三十一日	七
八月三十一日	七		
平均温度	七	七	七
平均湿度	七	七	七
降水量	七	七	七
蒸發量	七	七	七
日照時間	七	七	七

備考 各日に於ける示数は前回調査の翌日より次回調査日に至る間の平均数なり、本年の初霜は十月十日なり

明治四十三年度氣象表

月日	事項	平均温度	平均湿度	降水量	蒸發量	日照時間
六月四日		七	六	一四〇	三	四二四
七月七日		七	五		五	九四四
八月八日		六	八		五	八四八
九月九日		七	七	二三八	二	五二八
十月十日		七	七	一五三	四	五三三
十月十一日		七	七	二三八	二	五二八
十月十二日		七	七	一五三	四	五三三
十月十三日		七	七	二三八	二	五二八
十月十四日		七	七	一五三	四	五三三
十月十五日		七	七	二三八	二	五二八
十月十六日		七	七	一五三	四	五三三
十月十七日		七	七	二三八	二	五二八
十月十八日		七	七	一五三	四	五三三
十月十九日		七	七	二三八	二	五二八
十月二十日		七	七	一五三	四	五三三
十月二十一日		七	七	二三八	二	五二八
十月二十二日		七	七	一五三	四	五三三
十月二十三日		七	七	二三八	二	五二八
十月二十四日		七	七	一五三	四	五三三
十月二十五日		七	七	二三八	二	五二八
十月二十六日		七	七	一五三	四	五三三
十月二十七日		七	七	二三八	二	五二八
十月二十八日		七	七	一五三	四	五三三
十月二十九日		七	七	二三八	二	五二八
十月三十日		七	七	一五三	四	五三三
十月三十一日		七	七	二三八	二	五二八

明治四十三年梢條刈取後伸長ノ狀況

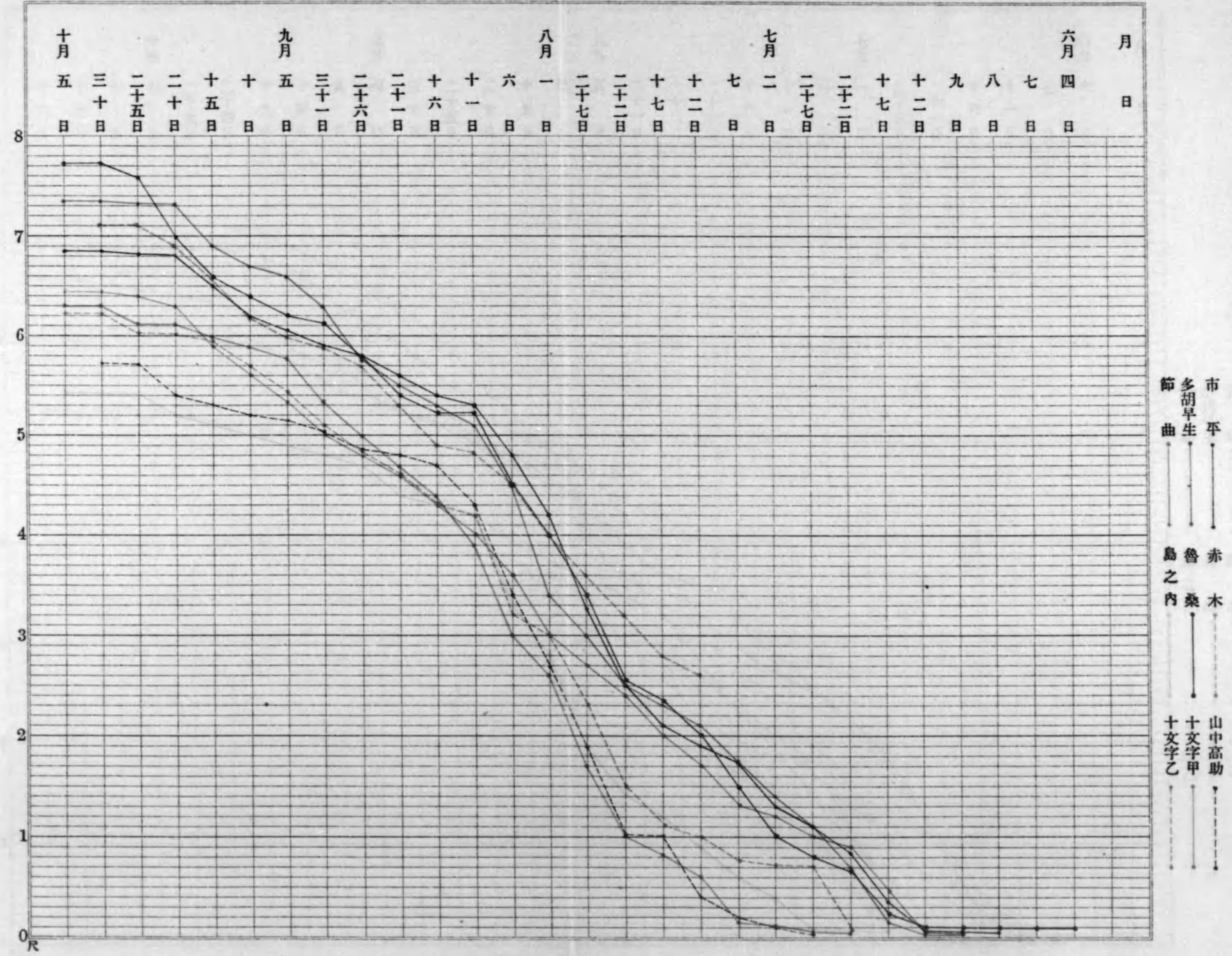


九月五日	十月五日	九月十日	九月二十五日	九月三十日	十月五日
七三	七二	六七	六八	六六	六五
八五	六三	七六	七三	七三	五九
一七〇	〇八六	〇一八	〇九二	二一六	一
二四八	五二〇	三三三	四四八	三四八	四三四
〇一七	七三八	五三〇	八五三	五五二	四四七

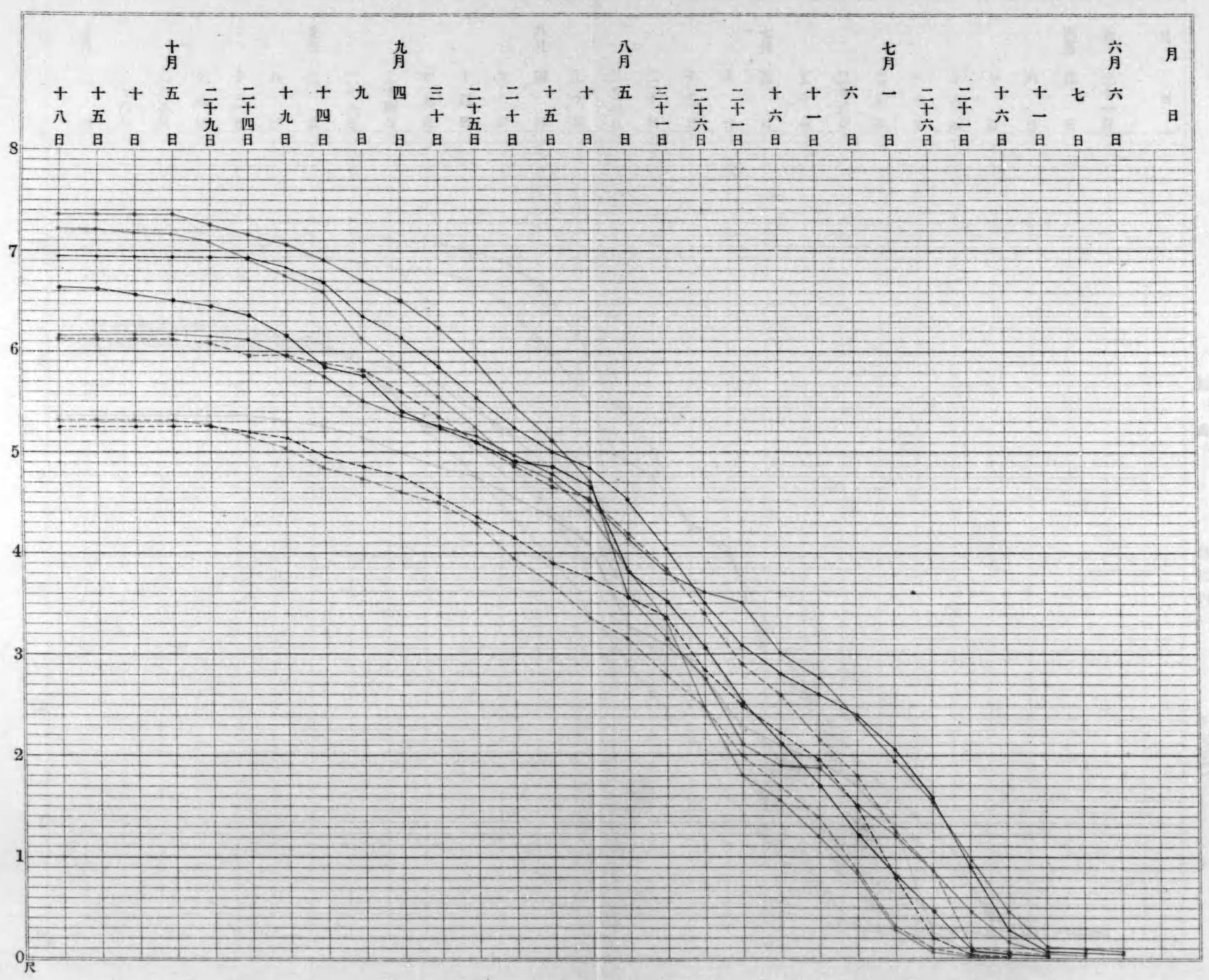
備考 各日に於ける示数は前回調査の翌日より次回調査日に至る間の平均数なり、本年の初霜は十月十日なり

備考 各日に於ける示数は前回調査の翌日より次回調査日に至る間の平均数なり、本年の初霜は十月十日なり

明治四十三年梢條刈取後伸長ノ状況

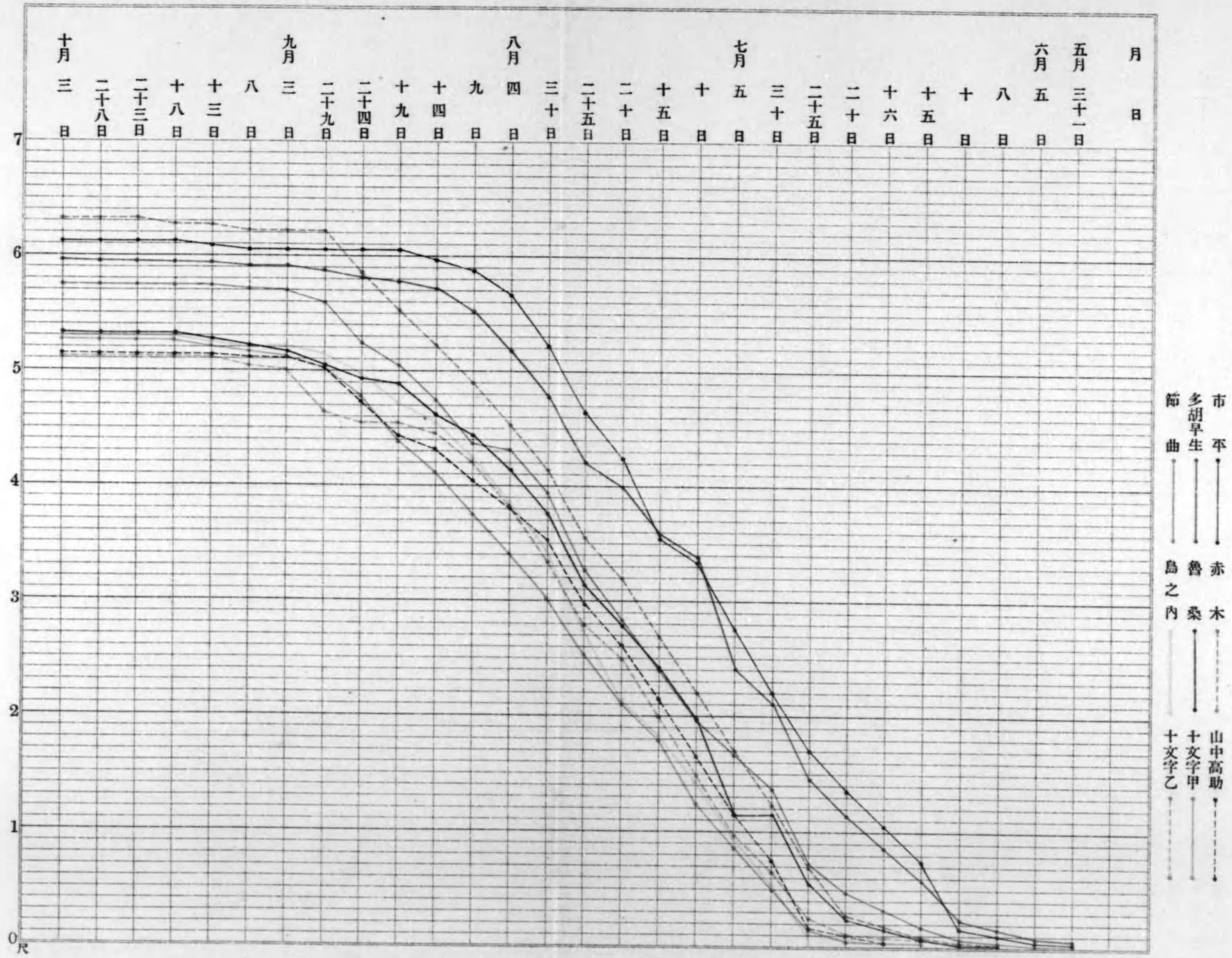


明治四十四年梢條刈取後伸長ノ狀況

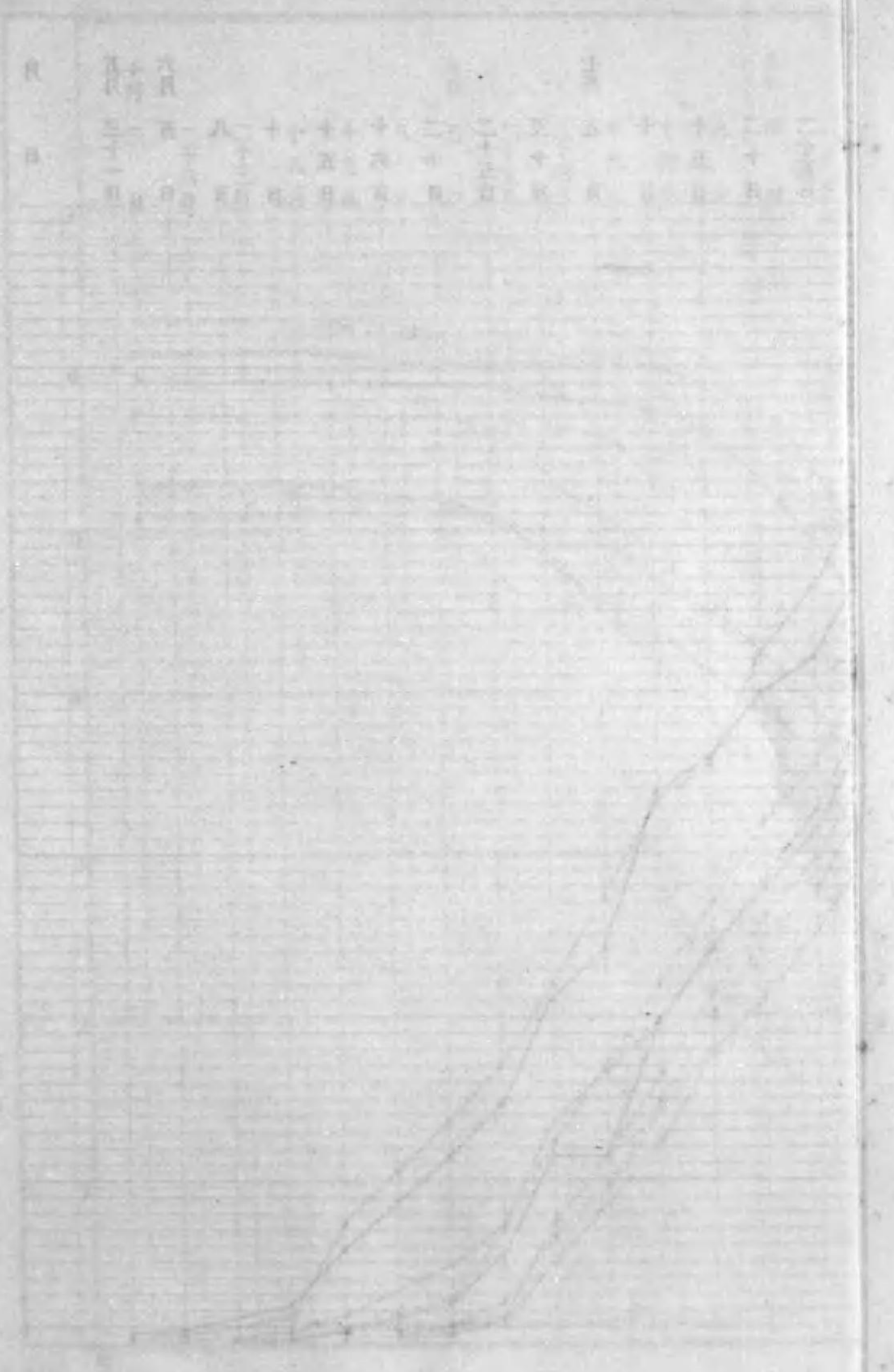


市平
赤木
山中高助
多胡早生
魯桑
十文字甲
島之内
十文字乙

大正元年梢條刈取後伸長ノ狀況



大正十四年... 裁桑概要



四、收量
各年に於ける一反歩當收量を示せば左表の如し
收量調査表

種別	事項	大正		元		年		明治		同		四	
		十三年	十四年	十三年	十四年	十四年	十五年	十四年	十五年	十四年	十五年	十四年	十五年
市平	多胡早生
節曲	魯桑
赤木	山中高助
十文字甲	十文字乙
島之内	

備考 一、本表は發育中庸のもの三株につき調査したるものを一反歩に改算したるものなり
二、總量は伐採後直ちに秤りたる全量なり
三、減耗量は葉新梢古梢を各別に秤り總量より引き去りたる殘數なり

四各年の調査日は左の如し

年	種別	早生桑	中生桑	晩生桑
大正元年	早生桑	五月二十一日 (蠶兒三齡三日)	五月三十一日 (蠶兒四眠中)	六月八日 (上簇の翌日)
	中生桑	五月二十八日 (蠶兒三眠中)	六月五日 (蠶兒四眠中)	六月十二日 (上簇の翌日)
明治四十四年	早生桑	五月二十一日 (蠶兒二眠中)	五月三十一日 (蠶兒四眠中)	六月八日 (上簇の翌日)
	中生桑	五月二十八日 (蠶兒三眠中)	六月五日 (蠶兒四眠中)	六月十二日 (上簇の翌日)
同四十四年	早生桑	五月二十一日 (蠶兒二眠中)	五月三十一日 (蠶兒四眠中)	六月八日 (上簇の翌日)
	中生桑	五月二十八日 (蠶兒三眠中)	六月五日 (蠶兒四眠中)	六月十二日 (上簇の翌日)

前表に由りて各年に於ける葉量を比較するに早生桑の調査日は同一蠶齡にあらざるを以て正確に收量の多寡を比較し難きも大正元年の調査日は明治四十四年に比し早かりしに係はらず其收量は却て多く又之を四十四年に比較せば其差著しきものあるによりて考ふれば三箇年中最多收なりしと云ふを得べく中生桑にありては魯桑の大正元年收量が前年より少かりし外は年を追て増加せり即ち第五年を第四年に比するに魯桑赤木共に二割を増し第六年を第五年に比するに魯桑は却て二割四分を減したれども赤木は三分弱を増せり此魯桑の減收は前既に記せる如く發芽伸長の狀況常に赤木に及ばざりしを以てなり晩生桑にありては十文字甲の大正元年收量が前年より少かりし外は何れも逐年増收を見たり即ち第五年を第四年に比するに山中高助は二割強根刈十文字は三割強中刈十文字は五割強の増收あり又第六年を第五年に比するに根刈十文字は一割一分強の減收ありしも山中高助は四割五分弱中刈十文字は五分弱の増收あり

又各品種間の成績を見るに早生桑にありては年に依りて相異なり殆んど其優劣を定め難き

も市平多胡早生は逐年増收あるに反し節曲は却て減收を見たり中生桑にありては從來魯桑は遙かに赤木の上にありしか第六年に於て其順位を轉倒し而かも其較差少からざりき晩生桑にありても亦其優劣一定せされども根刈十文字及島之内は伯仲の間にありて第一位を占め山中高助及中刈十文字は常に前二者より收量少なきを見る

更に右の表より新古梢及葉の割合を算出せるに左表を得たり

新古梢其他割合調査表

種別	大正元年		明治四十四年		同四十四年	
	新梢量	古梢量	新梢量	古梢量	新梢量	古梢量
市平	100	38.3	100	45.8	100	36.5
多胡早生	100	38.9	100	41.9	100	37.3
節曲	100	34.1	100	33.6	100	38.1
魯桑	100	37.5	100	45.8	100	42.4
赤木	100	41.4	100	49.5	100	42.4
山中高助	100	43.3	100	47.5	100	38.7
十文字甲	100	33.3	100	38.6	100	34.4
十文字乙	100	41.1	100	46.3	100	41.4
島之内	100	42.7	100	46.3	100	41.9

前表に由りて見るに葉の割合最も多かりしは第五年にして第四年及第六年に於ては葉量の

四〇%以上に達せしものは三四種に過ぎざりしか第五年にありては七種の多きに及べり又之を品種別に見るに早生桑の第四年の順位は節曲多胡早生市平なりしが第五年は節曲は依然として第一位を保ちたれども市平第二位に上り多胡早生第三位に下り第六年にありては前年と同しく市平第二位にあれども節曲第三位に下り多胡早生第一位を占めたり中生桑にありては第四年に於て赤木は魯桑に一步を輸せるも其他の年にありては赤木却て魯桑の上におり晩生桑に於ては根刈十文字の最下位にあること三箇年を通して相同しく山中高助は第四年を除き第一位を保ち中刈十文字及島之内は殆んど五角を以て之に亞げり

五、要 説

以上の記事に依りて當地方に於ける發芽伸長の狀況及收量の一斑を知るを得べし而して此等の事項と氣候の關係に就き仔細に考察せば桑樹栽培上注意すべきの點を認むるを得べし朝鮮の如き冬期寒氣の劇烈なる地方にては春期溫暖を催すこと急にして從て樹芽の開舒も亦甚た急速なるを常とす之を水原地方に見るに早生桑は其苞を脱してより僅かに四日乃至一週日にして葉形を認むべく開葉後の伸長亦頗る速にして概ね毎日一葉宛の割合にて開舒するを普通とす中生晩生桑亦略之に同じ故に芽の稍々膨大し僅かに其先端のみ苞を破りたる頃に於て蠶種の催青に着手すべく其燕嘴大となれる頃には催青は既に頗る進み二葉乃至三葉の開きたる頃には蠶兒の掃立を行ふに至らざるべからず朝鮮の夏季は氣温頗る高く且つ雨多きが故に桑樹の伸長頗る佳良にして九月下旬乃至十月上旬迄は其伸長力を有す然るに初霜は大抵十月上旬乃至中旬に結ぶを常とし伸長停止より

僅かに一二週日を経過するに過ぎざるを以て硬健ならざる新梢の先端は概ね此の時既に傷害を受くることありされば桑樹を栽培する者は能く施肥に注意し桑樹の生長最も旺盛なる時期即ち六月下旬乃至八月上旬迄に其肥効を完からしめざるべからず九月に入りて後尙ほ肥効を示すか如きことあらんか枝條徒らに軟弱に生育し縱令初冬に於て傷害を受けざるも冬期に於ける氣温激變の爲め甚たしき凍傷を被るに至るべし從來の成績により各品種の得失を比較せんに早生桑にありては收量の點に於ては市平多胡早生の兩種殆んど優劣の差なきか如きも多胡早生は第四年に於て寒害を蒙り市平は無害なりしより見れば前者は後者より寒氣の抵抗力弱きものと云はざるべからず節曲は枝條の伸長前二者より優れるか如きも收葉量多からず且つ葉硬化し易く殊に萎縮病に罹り易き大なる缺點あり中生桑にありては魯桑と赤木との間優劣を判定する能はずと雖も魯桑は赤木よりも寒害に弱きを以て京畿道以北にては寧ろ赤木を用ふるを安全なりとす晩生桑にありては十文字の收量最も多しと雖も京畿道以北の地には適せざるべく山中高助は能く寒地にも適すへしと雖も收量多からず且つ萎縮病に罹り易き缺點ありて良種と稱すべからず島之内は缺點と稱すへきものなしと雖も亦賞すべき特徴なく且つ晩生桑としては發芽早く從て硬化速かにして殆んど赤木と選ぶ處なし故に朝鮮の北部に栽培すべき品種としては四者何れも適當なりと云ふを得ず

給桑回数試験

技 手 長 岡 哲 三

春蠶期の氣候は常に乾燥なるを以て稍々多量の給桑を要するにあらざれば動もすれば蠶兒の食桑不足を來し易きものゝ如し然れども育蠶上濕潤に苦しむこと殆んど之なきが故に或程度迄は一回の給桑量を増せば其回数も減するも蠶兒の發育及萌質に不良の影響を及ぼすことなかるべきやを認め其程度を知らん爲め昨年來給桑の回数を異にして蠶兒を試育したるに其成績左記の如し

明治四十四年試験

本年にありては構造の異なる三個の蠶室に就き之を試験したり給桑回数蠶室の構造は左の如し

一、給桑回数

- 甲區 第一齡七回、第二齡第三齡六回、第四齡五回、第五齡四回とす
- 乙區 第一齡六回、第二齡第三齡五回、第四齡四回、第五齡三回とす
- 丙區 第一齡八回、第二齡七回、第三齡第四齡六回、第五齡五回とす

各區各齡の給桑時刻は左表の如し

區別	蠶齡	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
甲區	第一齡	午前四時、八時、十一時、午後二時、五時、八時、十一時	午前五時、九時、十二時、午後三時、七時、十一時	同	同	午前六時、十時、午後五時、九時、十二時
乙區	第一齡	午前四時、八時、十一時、午後二時、五時、八時、十一時	午前五時、九時、十二時、午後三時、七時、十一時	同	同	午前六時、十時、午後五時、九時、十二時
丙區	第一齡	午前四時、八時、十一時、午後二時、五時、八時、十一時	午前五時、九時、十二時、午後三時、七時、十一時	午前五時、九時、十二時、午後三時、七時、十一時	午前六時、十時、午後五時、九時、十二時	午前六時、十時、午後五時、九時、十二時

二、供用蠶室

- 第一蠶室 内地式
- 第二蠶室 簡易なる居宅兼用向にして飼育室は藁屋根平屋建にして土間に四五寸の粗糠を敷きたり
- 第三蠶室 朝鮮式
 - 一間半の温突式にして小なる高窓を附け空氣の流通に便ならしめたるご出入口を高さ五尺七八寸とせざる外は凡て朝鮮式なり

三、供用蠶種

當場に於て明治四十三年飼育採種せる一化性小石丸にして各蠶室共に各區蠶量二分を收容せり

四、飼育中の概況

供用蠶種は冬期間及催青中の取扱を同ふし掃立は同時に之を行ひ飼育期中四圍の事情は給桑回数以外全然同一ならしめたり然れども蠶室及給桑回数異なるに從ひ蠶兒の發育經過に差異を生ずるは免れざりき今之を表示すれば左の如し

第一蠶室

區別	事項	掃立	上簇	平均温度	平均湿度	飼育日數
甲區	五月十二日	六月十二日	午後一時	七〇度	六六〇	二十六日 三十二日
乙區	五月十二日	六月十二日	午後一時	七〇度	六六〇	二十六日 三十二日
丙區	五月十二日	六月十二日	午後一時	七〇度	六六〇	二十六日 三十二日

區	事項	平均溫度	平均濕度	飼育中	合計
丙	同	七〇九	六六三	二十六日間	三十三日間
乙	同	七〇〇	六六〇	二十六日間	三十三日間

第二蠶室

區	事項	平均溫度	平均濕度	飼育中	合計
甲	五月十一日	七二五	七〇六	二十五日間	九十三日間
乙	同	七二二	七〇三	二十六日間	九十二日間
丙	同	七二四	七〇七	二十六日間	九十二日間

第三蠶室

區	事項	平均溫度	平均濕度	飼育中	合計
甲	五月十一日	七二五	七二二	三十六日間	十三十八日間
乙	同	七二七	七二〇	三十六日間	十三十一日間
丙	同	七二五	七〇七	三十六日間	十三十一日間

前三表によれば給桑回数最も少なき乙區は最も長き日数を要し之に反して回数最も多き丙區の経過は最も短く甲區其間にあること各蠶室共に一致せり但し其差は何れも僅少なり尙其経過の詳細は左記各表の如し

蠶兒經過表

第一蠶室

區	事項	平均溫度	平均濕度	飼育中	合計
甲	五月十一日	七〇四	五九二	二十日間	七十三日間
乙	同	七〇九	六三七	二十一日間	七十四日間
丙	同	七二九	六二六	二十四日間	七十五日間
合計		七二〇	六六〇	二十七日間	七十四日間

第二蠶室

區	事項	平均溫度	平均濕度	飼育中	合計
甲	五月十一日	七〇五	五九二	二十一日間	七十七日間
乙	同	七〇九	六三二	二十二日間	七十八日間
丙	同	七二九	六二四	二十四日間	八十二日間
合計		七二三	六二六	二十七日間	八十二日間

蠶業 給桑回数試験

合計	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時	五月二十九日 午後九時
----	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

第三蠶室
甲區

事項	飼給	食立	催籠	熟眠	上停	糞食	竣	蛻	平均溫度	平均濕度	齡中	眠中	中日	合計
一	五月十一日	五月十一日	五月十六日	五月十六日	五月十七日	五月十七日	五月十八日	五月十八日	六八	六六	十三時	十一時	八時	七時
二	五月十八日	五月十八日	五月二十一日	五月二十一日	五月二十二日	五月二十二日	五月二十三時	五月二十三時	七八	五三	十四時	十一時	八時	四時
三	五月二十三時	五月二十三時	五月二十六日	五月二十六日	五月二十七時	五月二十七時	五月二十九日	五月二十九日	七四	六九	十四時	十一時	八時	二時
四	五月二十九日	五月二十九日	六月一日	六月一日	六月二時	六月二時	六月四時	六月四時	七五	八八	十六時	十一時	八時	六時
五	六月四日	六月四日	六月八時	六月八時	六月十一時	六月十一時	六月十二時	六月十二時	七五	七二	十八時	十一時	八時	六時
合計														

乙區

事項	飼給	食立	催籠	熟眠	上停	糞食	竣	蛻	平均溫度	平均濕度	齡中	眠中	中日	合計
一	五月十一日	五月十一日	五月十六日	五月十六日	五月十七日	五月十七日	五月十八日	五月十八日	六八	六五	十五時	十一時	九時	七時
二	五月二十八日	五月二十八日	五月三十一日	五月三十一日	六月一日	六月一日	六月二時	六月二時	七八	五二	十三時	十一時	九時	七時

事項	飼給	食立	催籠	熟眠	上停	糞食	竣	蛻	平均溫度	平均濕度	齡中	眠中	中日	合計
一	五月十一日	五月十一日	五月十六日	五月十六日	五月十七日	五月十七日	五月十八日	五月十八日	六八	六六	十三時	十一時	八時	七時
二	五月十八日	五月十八日	五月二十一時	五月二十一時	五月二十二時	五月二十二時	五月二十三時	五月二十三時	七八	五三	十四時	十一時	八時	四時
三	五月二十三時	五月二十三時	五月二十六日	五月二十六日	五月二十七時	五月二十七時	五月二十九日	五月二十九日	七四	六九	十四時	十一時	八時	二時
四	五月二十九日	五月二十九日	六月一日	六月一日	六月二時	六月二時	六月四時	六月四時	七五	八八	十六時	十一時	八時	六時
五	六月四日	六月四日	六月八時	六月八時	六月十一時	六月十一時	六月十二時	六月十二時	七五	七二	十八時	十一時	八時	六時
合計														

丙區

事項	飼給	食立	催籠	熟眠	上停	糞食	竣	蛻	平均溫度	平均濕度	齡中	眠中	中日	合計
一	五月十一日	五月十一日	五月十六日	五月十六日	五月十七日	五月十七日	五月十八日	五月十八日	六八	六六	十三時	十一時	八時	七時
二	五月十八日	五月十八日	五月二十一時	五月二十一時	五月二十二時	五月二十二時	五月二十三時	五月二十三時	七八	五三	十四時	十一時	八時	四時
三	五月二十三時	五月二十三時	五月二十六日	五月二十六日	五月二十七時	五月二十七時	五月二十九日	五月二十九日	七四	六九	十四時	十一時	八時	二時
四	五月二十九日	五月二十九日	六月一日	六月一日	六月二時	六月二時	六月四時	六月四時	七五	八八	十六時	十一時	八時	六時
五	六月四日	六月四日	六月八時	六月八時	六月十一時	六月十一時	六月十二時	六月十二時	七五	七二	十八時	十一時	八時	六時
合計														

第一蠶室

給桑量は三區ともに同量ならしむるを期したるも經過に長短ありしを以て各區多少の差異を生ずるの止むを得るに至れり即ち左の如し

事項	區別			回数
	甲	乙	丙	
第一齡	四三頭	三六頭	四六頭	一二五頭
第二齡	四九頭	四七頭	三九頭	一二五頭
第三齡	九〇頭	七三頭	七七頭	二三四頭
第四齡	二〇六頭	二六三頭	二七頭	五〇〇頭
第五齡	三九四頭	三六〇頭	三八頭	八〇二頭
合計	一四八頭	一三二頭	一六五頭	四四五頭

第二蠶室

事項	區別			回数
	甲	乙	丙	
第一齡	四六頭	三六頭	四三頭	一二五頭
第二齡	四六頭	四〇頭	三八頭	一二四頭
第三齡	七〇頭	七五頭	七六頭	二二一頭
第四齡	二七頭	一九頭	二六頭	七二頭
第五齡	三八二頭	三六三頭	三五九頭	一〇〇四頭
合計	一四四頭	一三二頭	一六一頭	四〇六頭

第三蠶室

事項	區別			回数
	甲	乙	丙	
第一齡	四二頭	三五頭	四六頭	一二三頭
第二齡	四〇頭	三八頭	三九頭	一二〇頭
第三齡	七六頭	七〇頭	七九頭	二二五頭
第四齡	二八頭	一八頭	二六頭	七二頭
第五齡	三〇三頭	二六六頭	二九五頭	八六四頭
合計	一四一頭	一三四頭	一五七頭	四二八頭

前表に由りて見るに第三蠶室にありては乙區の給桑量最も少かりしも第一第二蠶室にありては乙區は甲丙の中間に位し丙區最も少かりき而して甲區の給桑最も多かりしことは各蠶室相同じ而して蠶兒の發育の最も齊一なりしは經過の短き丙區にして遅蠶數も丙區に於て著しく尠なりし左表は之を證す

遅蠶頭數表 (對蠶量一匁)

第一蠶室

事項	區別			回数
	甲	乙	丙	
第一齡	二五頭	二五頭	六五頭	一一五頭
第二齡	三〇頭	二〇頭	七〇頭	一二〇頭
第三齡	七〇頭	一七五頭	五五頭	三〇〇頭
第四齡	一六〇頭	三〇五頭	七〇頭	五三五頭
合計	六五〇頭	七二五頭	二六〇頭	一六三五頭

第二蠶室

事項	區別			回数
	甲	乙	丙	
第一齡	二五頭	七〇頭	八五頭	一八〇頭
第二齡	二四頭	一九〇頭	七〇頭	二八四頭
第三齡	二一〇頭	二二五頭	二五頭	四六〇頭
第四齡	七五頭	七五頭	五〇頭	一九五頭
合計	四四五頭	四六〇頭	二六〇頭	一三六五頭

第三蠶室

區別	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	合計
甲區	七〇	三五	二〇	二〇	一四五
乙區	五五	九〇	一五	三〇	一九〇
丙區	六〇	〇	一五	〇	七五

蠶兒の體量は一、二の例外ありしも大體に於て各蠶室共に丙區最も重く甲區之に亞き乙區最も輕かりき即ち左表の如し

蠶兒體量表 (對百頭)

第一蠶室

區別	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
甲區	〇・五三二	〇・七〇七	四・三	二〇・五	九八・〇
乙區	〇・五五五	〇・七〇〇	三・八六	一九・九	九七・六
丙區	〇・五八二	〇・八二二	四・二〇	二二・〇	一一一・〇

備考 蟻蠶の體量は各區共に同一なり(以下倣之)

第二蠶室

區別	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
甲區	〇・六五五	〇・八三三	四・一四	二〇・八	九八・五

區別	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
甲區	〇・二六四九	〇・八五二五	四・二四	二二・五	一〇八・〇
乙區	〇・二六四三	〇・八三三〇	四・四九	二〇・八	一〇五・〇
丙區	〇・二六四五	〇・八〇六二	四・五三	二二・八	一一一・〇

第三蠶室

五、收量と繭の品質

收繭量にありては第二蠶室に於て乙區の上繭甲區より多かりし外は容量及重量共に丙區第一位を占め甲區之に次ぎ乙區最も少かりき即ち左表の如し

收繭表 (對蠶量一匁)

第一蠶室

區別	事項	容量	重量	同功重量	容量	重量
甲區	上繭	三三・五	三・三〇	五〇・〇	五二・五	三九・五
乙區	上繭	三二・〇	三・一〇	五二・五	五四・五	三七・五
丙區	上繭	三四・〇	三・五二	五五・〇	四〇・五	四一・〇
甲區	下繭	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
乙區	下繭	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
丙區	下繭	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五
合計						

區別事項	第二蠶室		
	甲區	乙區	丙區
容上	二五七〇	二六〇〇	二八二五
重上	二五四〇	二七五〇	二八五〇
容下	四〇	二五	四〇
重下	四〇	二五	四〇
對生	四〇	二五	四〇
同功	六六〇	四二五	六六〇
重同	七〇	五〇五	七〇
容合	三六〇	三五〇	三五〇
重合	三二八〇	三二八〇	三二八〇
計	三二八〇	三二八〇	三二八〇

區別事項	第三蠶室		
	甲區	乙區	丙區
容上	三三〇〇	三三二五	三五五〇
重上	三一九五	三三四〇	三三三五
容下	一五	三五	一〇
重下	一五	三五	一〇
對生	一五	三五	一〇
同功	三三〇	四〇〇	四〇〇
重同	三九五	四二〇	四二〇
容合	三五〇	三五六〇	三六六〇
重合	三六〇〇	三五九〇	三五九〇
計	三六〇〇	三五九〇	三五九〇

繭の品質を調査せる結果は左表の如し

繭質調査表 其一

區別事項	第一蠶室		
	甲區	乙區	丙區
容上	二二五	二二四	二二五
重上	〇五九	〇五八	〇五九
容下	二二	二二	二二
重下	二二	二二	二二
對生	二二	二二	二二
同功	〇七六	〇六六	〇七六
重同	四六	四六	四六
容合	〇〇二	〇〇二	〇〇二
重合	一四	一四	一四
計	一四	一四	一四

備考 繭の長及幅は十顆の平均數なり(以下倣之)

第二蠶室

區別事項	第三蠶室		
	甲區	乙區	丙區
長	二二	二二	二二
幅大	〇五四	〇五四	〇五四
一針の粒數	二二五	二二五	二二五
對生	四九〇	四八八	五三〇
同功	〇六七	〇六六	〇七三
重同	四二二	四二〇	四二五
容合	〇〇二	〇〇二	〇〇二
重合	一三六	一三五	一三八
計	一三六	一三五	一三八

繭質調査表 其二

區別事項	第一蠶室		
	甲區	乙區	丙區
長	五九〇	六六〇	六七〇
幅大	四三〇	五六〇	五四〇
一針の粒數	五二	六〇六	五七八
對生	六〇六	六四一	六四四
同功	四〇三	三五四	三八四
重同	三二四	二九五	二九七
容合	三二四	三二八	三二七
重合	三二四	四〇	三二
計	三二四	四〇	三二

蠶業 給桑回数試験

第二蠶室

區別	事項	最長			最短			平均			一類の			最太			最細			平均			類節			切斷			
		丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	
區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	
					六〇〇	六二〇	六〇〇	五〇〇	五四〇	五四〇	五八〇	五九二	五七八	六六三	六〇一	六二七	三九六	三四一	三四七	三三三	二五八	二八二	三三三	三五四	四八	〇	〇	〇	〇

第三蠶室

區別	事項	最長			最短			平均			一類の			最太			最細			平均			類節			切斷			
		丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	
區	區	區	區	區	六五〇	六三〇	六四〇	五五〇	五〇〇	四五〇	五八六	五七八	五三二	六五六	五七四	六二二	三四〇	三三三	三三〇	三一九	二六七	二九八	三三五	三三五	二四	〇	〇	〇	〇

前數表に由れば繭の大きに於ては丙區最も大にして甲區之に亞ぎ乙區最も小なれば一類の糸量にありても亦丙區最も多く乙區最も少なく甲區は其中間にあること各室共に一致せり然れども絲長に於ては第三蠶室を除くの外は却て右と反對の順序にあり織度にありても丙及甲區は太きに過くれども乙區は適度なりき而して類節切斷に至りては各區の間殆んど優劣なかりき又座繰製絲をなせる成績は左表の如し

製絲成績表 (對一舛)

第一蠶室

區別	事項	煮繭回数同上時間			索緒回数同上時間			繰絲時間			總時間			生絲量			屑絲量			揚繭			殘繭					
		丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲			
區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區
					二	二	二	八	八	八	六	五	五	五九	五六	五九	一一三	一〇九	一一二	一一三	一三三	一三〇	一三〇	〇	〇	〇	〇	〇

第二蠶室

區別	事項	煮繭回数同上時間			索緒回数同上時間			繰絲時間			總時間			生絲量			屑絲量			揚繭			殘繭					
		丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲
區	區	區	區	區	二	二	二	一〇	一〇	八	七	五	六	五五	五二	一〇〇	一一三	一〇七	一一四	一二三	一二九	一二九	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第三蠶室

區別	事項	煮繭回数同上時間			索緒回数同上時間			繰絲時間			總時間			生絲量			屑絲量			揚繭			殘繭					
		丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲
區	區	區	區	區	二	二	二	八	八	八	六	六	六	五九	五九	一〇一	一一三	一一三	一一五	一二三	一二五	一二五	〇	〇	〇	〇	〇	〇

前表に示す如く各區の優劣の差極めて僅少なりと雖も大體に於ては丙區の生絲量最も多く甲區之に次ぎ乙區最も少く前記一類の生絲量の多寡と順位を同くせり又各區蠶量一匁に對する生絲量を算出せるに左表の如し

對蠶量一匁生絲量調査表

區別	蠶室別		
	第一蠶室	第二蠶室	第三蠶室
甲區	四九八六	四三〇三	四三〇八
乙區	四七九一	三八六八	四〇九四
丙區	五二九三	四四二九	四五〇二

前表に由れば丙區の生絲量最も多く甲區之に次ぎ乙區最も少なきこと皆相同じ更に給桑に對する繭及生絲量を算出すれば左表の如し

給桑對繭及生絲量調査表 (對給桑百匁)

區別	第一蠶室			第二蠶室			第三蠶室		
	繭量	生絲量	繭量	生絲量	繭量	生絲量	繭量	生絲量	
甲區	七五四四	九八〇八	六七二七	八六七八	八六四四	一〇三九七	七五五九	一〇八〇五	
乙區	七五五六	一〇〇八四	六八四七	八三〇七	九五八五	一〇八〇五	八七二九	一一一八七	
丙區	八七二九	一一六二〇	七五四九	九五二二	九〇九五	一一一八七			

給桑に對する繭量は第三蠶室の外は丙區最も多く乙區之に次ぎ甲區最も少なき第三蠶室にありても亦甲區の收量最も少なき乙區首位を占め丙區は第二位に下れり生絲量にありては

第二蠶室に於て甲區第二位にありしも第一第三蠶室にては第三位に下り乙區第二位を保ち丙區は首位を占む

大正元年試験

本年は温突式蠶室のみに依りて試験せり是れ前年試験の結果蠶室構造の相異は成績に及ぼす影響殆んど之なきを示せると朝鮮農家の蠶室は殆んど全部温突式なるを以てなり尙朝鮮の氣候は晝夜氣温の較差大なるにより夜間最終の給桑と早朝の給桑との間は長くとも差支なきやを知らんとし其目的に應せしめん爲め更に一區を増加せり即ち左の如し

- 甲區 第一齡七回、第二齡第三齡六回、第四齡五回、第五齡四回とす
 - 乙區 第一齡六回、第二齡第三齡五回、第四齡四回、第五齡三回とす
 - 丙區 第一齡八回、第二齡七回、第三齡第四齡六回、第五齡五回とす
 - 丁區 回数は甲區と同じけれ共最終の給桑を一時間繰り上げ最初の給桑を一時間繰り下けたり但し第二齡に限り最初の給桑は甲區と同時に刻に行ひたり
- 甲乙丙三區の給桑時刻は前年に同じ丁區にありては即ち左表の如し

蠶齡	飼育中の概況				
	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
丁區	午前五時、八時、十一時 午後二時、四時、七時、十時	午前五時、九時、十二時 午後三時、六時、十時	午前六時、九時、十二時 午後三時、六時、十時	午前六時、十時 午後二時、六時、十時	午前六時、十二時 午後五時、十時

供用蠶種は當場に於て昨年飼育採種せる一化性又昔にして各區の蠶量を五分とせり

一、飼育中の概況

供用蠶種の冬期間及催青中の取扱は全く同一にして各區の掃立は同時に之を行ひ其後同室にて飼育したるも各區蠶兒の發育經過多少の差異を生じたり即ち左表の如し

蠶兒經過表

區別	目標	掃立	上簇	平均溫度	平均濕度	飼育中	眠中	合計
甲區	正五月七日	午六月初八日	午六月初八日	七・七	六・六	十二時五十分	十六時	三十二時
乙區	同	午六月初八日	午六月初八日	七・六	六・四	十二時五十分	十六時	三十二時
丙區	同	午六月初七日	午六月初七日	七・五	六・〇	十二時四十分	十六時	三十一時
丁區	同	午六月初八日	午六月初八日	七・六	六・七	十二時五十分	十六時	三十二時

前表に由りて經過の長短を見るに其差は何れも極めて僅少なりと雖も給桑回数最も少なき乙區は最も長き日數を要し之に反して回数最も多き丙區の經過は最も短く甲及丁兩區は其中間にあること前年と其撥を一致せり尙其詳細なる經過を表示すれば左の如し

蠶兒經過表

蠶齡	目標	飼育中	眠中	合計
一	正五月七日	午五月初八日	午五月初八日	三十七時
二	正五月十四日	午五月初七日	午五月初七日	三十四時

蠶齡	目標	飼育中	眠中	合計
一	正五月七日	午五月初八日	午五月初八日	三十七時
二	正五月十四日	午五月初七日	午五月初七日	三十四時
三	正五月二十一日	午五月初六日	午五月初六日	三十一時
四	正五月二十八日	午五月初五日	午五月初五日	二十八時
五	正六月四日	午五月初四日	午五月初四日	二十五時
合計				六十六時

蠶齡	目標	飼育中	眠中	合計
一	正五月七日	午五月初八日	午五月初八日	三十七時
二	正五月十四日	午五月初七日	午五月初七日	三十四時
三	正五月二十一日	午五月初六日	午五月初六日	三十一時
四	正五月二十八日	午五月初五日	午五月初五日	二十八時
五	正六月四日	午五月初四日	午五月初四日	二十五時
合計				七十七時

蠶齡	目標	飼育中	眠中	合計
一	正五月七日	午五月初八日	午五月初八日	三十七時
二	正五月十四日	午五月初七日	午五月初七日	三十四時

蠶業 給桑回数試験

齡	計	五	四	三
食立	午六 後月 六 一時日	正五 月二 十五 日午	午五 月九 日午	午五 月九 日午
催熟	午六 後月 二 六時日	午五 月二 十九 日午	午五 月二 十二 日午	午五 月二 十二 日午
上停	午六 後月 六 七時日	午五 月三 十 日午	午五 月二 十三 日午	午五 月二 十三 日午
竣	午六 後月 六 一時日	正五 月二 十五 日午	午五 月二 十五 日午	午五 月二 十五 日午
平均 溫度	七、 五	七、 八	七、 六	七、 三
平均 濕度	六、 〇	七、 一	七、 六	五、 五
飼育 中	十二 時四 十分	六 時	三 時	十 四 時
中 日	十六 時	三 時	十 三 時	十 三 時
合 計	六 時 一 十分	六 時 七 分	六 時 三 分	三 時 六 分

丁 區

齡	計	五	四	三	二	一
食立	午六 後月 十 一時日	午五 月二 十五 日午	正五 月十 九日 午	午五 月三 十四 日午	正五 月三 十四 日午	正五 月七 日午
催熟	午六 前月 六 七時日	午五 月十 九日 午	午五 月二 十三 日午	午五 月三 十七 日午	午五 月三 十七 日午	午五 月八 十二 日午
上停	午六 前月 十 八時日	午五 月三 十日 午	午五 月二 十四 日午	午五 月五 十八 日午	午五 月五 十八 日午	午五 月五 十三 日午
竣	午六 後月 十 一時日	午五 月十 九日 午	正五 月十 九日 午	正五 月十 九日 午	正五 月十 九日 午	正五 月十 九日 午
平均 溫度	七、 六	七、 六	七、 九	七、 四	七、 三	六、 九
平均 濕度	六、 七	七、 一	七、 一	五、 七	六、 六	五、 二
飼育 中	十二 時五 十分	十六 時	五 時	十 四 時	十 三 時	十 七 時
中 日	九 時	四 時	十 二 時	七 時	七 時	十 一 時
合 計	三 十二 時	十 六 時	四 時	六 時	二 十 一 時	三 時

前記各表を仔細に觀察するに稚蠶中に於ける發育經過は給桑の回数多きに從ひ短きも壯蠶に至りては全く之に相反せり是れ稚蠶期の給桑は其凋萎速なるにより假令其全量に於て大差なしとするも回数少なければ從て蠶兒の食桑少く自然發育に長時日を要すべく壯蠶に至れば給桑の枯凋遅きか故に給桑量に於て大差なき以上蠶兒の食桑量も亦大差なきと回数

少なきものは其多きものに比し蠶兒の體軀小なるか故に其就眠老熟は從て比較的早きものならんか又丁區は日中の各給桑時刻相互間は却て甲區より短きも夜間の休食時間は乙區より長かりしかば氣温高き夜の如きは頭部を下けて飢餓に迫れる狀を呈せる蠶兒あるを認めたり故に運蠶の頭數の如きも第一齡中に於ては丁區最も多かりき第二齡以後にありては乙區最も多く丁區之に亞き丙區は第一齡に於て他區と大差なかりしも其他にありては常に最も少なく甲區は第一齡を除けば第二位にあり即ち左表の如し

運蠶頭數表 (對蠶量一匁)

區別	齡	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	合	計
甲區		九六	五六	三四	四二	二二八	
乙區		八四	七六	四六	七四	二八二	
丙區		八六	四三	二八	一六	一七三	
丁區		二二	六六	六〇	三〇	二六八	

蠶兒體軀の發育は給桑回数最も多き丙區常に第一位を占めたるも他區は蠶齡によりて區區なりき即ち第一齡より第三齡に至る間は乙區常に最も重く甲區之に亞き丁區最も輕かりしか第四齡以後に於ては全く順序を顛倒して甲區最も重く丁區之に次ぎ乙區最も輕きを見たり今各區の體量を表示すれば左の如し

蠶兒體量表 (對百頭)

區別	蠶齡	給桑				
		第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
甲區	蠶	0.0107	0.2577	0.2678	5.1322	26.839
乙區	蠶	同前	0.2573	0.2589	5.2578	25.452
丙區	蠶	同前	0.2582	0.2534	5.4927	27.406
丁區	蠶	同前	0.2555	0.2587	4.9448	26.742
	合計					108.0

二、給桑

給桑の量は各區共に同量ならしむるを期したるも經過に長短ありしを以て各區多少の差異を生ずるの止むを得ざるに至れるは前年に同じ

給桑表 (對蠶量一匁)

區別	目標	第一齡					第二齡					第三齡					第四齡					第五齡					合計
		回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量						
甲區	蠶	41	378	33	684	29	226	26	692	26	3945	14	4963														
乙區	蠶	36	378	19	655	25	2133	2	680	19	3943	210	4940														
丙區	蠶	46	404	25	684	29	2261	33	7639	30	3870	162	4969														
丁區	蠶	41	380	33	684	29	2261	26	6882	26	3945	14	4970														

前表に由りて見るに第一齡にありては丙區最も多く丁區之に亞ぎ甲及乙の兩區同量にて最も少なく第二齡及第三齡は甲丙丁の三區同量を示し乙區之より少なく第四齡にありては丙區最も多く甲區丁區之に順次し乙區最も少く而して甲區丁區乙區の差は僅少なれ共右三區

の丙區に對する差は甚だ多かりき第五齡に至りては丁區最も多く甲區乙區之に順次し從來常に最も多かりし丙區最も少かりき
給桑全量にありては丁區丙區甲區乙區の順にありしも其差極めて微少にして十匁を超へず只乙區のみ約三百匁の差ありしのみ
三、收量と繭の品質
收繭量は丙區最も多く甲區丁區之に亞ぎ乙區最も少かりき而して上繭の最は能く總收量と其順位を同ふす即ち左表の如し

收繭表 (對蠶量一匁)

區別	目標	上繭					同功繭					合計					一匁粒數
		容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量				
甲區	蠶	37.0	40.8	9.0	10.6	34.0	44.2	41.5	46.2	33.4	23.4						
乙區	蠶	36.0	38.9	17.0	1.9	33.0	42.3	41.0	45.0	24.8							
丙區	蠶	37.0	41.2	7.0	7.8	36.0	50.4	41.9	47.0	33.4							
丁區	蠶	36.8	40.3	10.0	11.0	36.0	47.4	41.4	46.6	33.5							

繭調査表 其一

區別	目標	十顆平均					十層平均					合計
		長	幅	繭量	繭層	繭十	繭量	繭層	繭十			
甲區	蠶	7.0	5.5	0.5108	0.5108	0.7611	0.4434	0.0143	1.46			

區別	目標	最長	最短	平均	一類絲量	最粗	最細	平均	類節	切斷
乙區		二、九六	〇、五二七	〇、五〇五九六	〇、〇七三四	〇、四〇三三	〇、〇〇二四〇	一、四五		
丙區		一、三〇	〇、五三四	〇、五〇八五	〇、〇〇四二	〇、四六〇三	〇、〇〇一三〇	一、四六		
丁區		一、〇三	〇、五三二	〇、五〇八五〇	〇、〇七四五	〇、四四一四九	〇、〇〇一三〇	一、四四		

同 其二

區別	目標	最長	最短	平均	一類絲量	最粗	最細	平均	類節	切斷
甲區		七、五〇	五、五五	六、四五	〇、〇七三	三、八	三、〇八	三、三六	〇、七四	〇、一九
乙區		六、七五	五、二五	六、三	〇、〇六九八	四、〇	二、八六	三、四三	一、〇四	〇、一〇
丙區		七、〇	五、八五	六、四八	〇、〇七八	三、四七	三、〇九	三、三二	〇、四三	〇、一九
丁區		七、五	五、四〇	六、六	〇、〇四五	三、四〇	二、六四	三、一六	一、一〇	〇、三三

前二表によれば丙區の産繭は其形最も大にして重く且つ繭層量最も多し甲區之に亞ぎ丁區第三位を占め乙區最も下位にあり絲長に於ても亦右の順位を保ち絲量にありては甲區第一位を占め丙區第二位に下れる外絲長と同一順序にあり織度は一般に太きに過ぎたれども就中乙區最も太く丁區最細を示し甲、丙の二區は其中間にあり類節及切斷にありては丙區最も優り甲區丁區順次に亞ぎ乙區の成績最も劣れり

前二表は上繭中より比較的優良なるもの十類を撰出して調査せるものなるが更に簇より採りたる儘全く撰別せざる上繭を各區五十類つゝを採り之を調査したる成績は左表の如し

繭質調査表 其三

區別	目標	繭の長短と短細との相乗積(平方寸)		一類繭量(瓦)		一類繭層量(瓦)		繭層量歩合(%)	
		最大	最小	最多	最少	最多	最少	最多	最少
甲區		〇、一四八二	〇、五〇〇〇	〇、八七六	〇、〇六七七	〇、三六七	〇、一八一	五、二七	三、三一
乙區		〇、一〇一〇	〇、四九八	〇、九〇〇	〇、四九一	〇、三三七	〇、一七五	五、〇九	二、九八
丙區		〇、一四六七	〇、五五〇〇	〇、八八〇	〇、四九七	〇、三四五	〇、二二四	四、七七	三、六〇
丁區		〇、一七〇六	〇、四九〇	〇、八五五	〇、四六八	〇、三三二	〇、一七七	四、六一	三、四四

備考 本表は乾繭五十類に付き調査したるものなり

前表に由れば最大最小又は最多最少の較差少く且繭形大にして繭量重く繭層量歩合多きは丙及甲の二區にして兩者の成績相伯仲し丁區之に亞ぎ乙區は最も下位にあり

四、産卵数の調査

各區健全なる母蛾三十蛾宛を採り同一保護の下に産卵せしめたるに左表を得たり

産卵数調査表 (平均一蛾に付)

區別	目標	受精卵数(粒)			不受精卵及死卵(粒)			合計
		最多	最少	平均	最多	最少	平均	
甲區		七、四	二、五	五、一六	四、一	〇	一、三	五、八
乙區		七、二	三	四、七	八、八	〇	一、六	五、〇三
丙區		七、五三	一、九四	四、六八	五、六	〇	八	四、七六
丁區		七、八三	二	四、六二	三、六	〇	一、二	四、七三

備考 本表中甲、丙、丁の三區は各三十蛾に付き調査せしも乙區は調査前風害に罹り完全な

るもの二十蛾のみなりしを以て已むなく二十蛾に付調査したるものなり
即ち各區著しき優劣なしと雖も丙及甲區殊に丙區の不受精卵數の比較的最も少かりしこと
は注目に値すべきものならん

五、結 論

上記二個年の成績を綜合して要説すれば左の如し

- 一、經過日數にありては給桑回數の少なきものは其多きものより長く且つ蠶兒の發育不齊にして遲蠶多し而して經過の長短の差は極めて少なく遲蠶の數は其差大なり
- 一、蠶兒の體軀は給桑回數の多きに從ひ次第に重し
- 一、給桑量は回數の多寡に依りて殆んど差異なきか如し
- 一、收繭量は給桑回數の多きものに多く又回數を同ふす場合には其時刻の適當なるものに於て優れり
- 一、今給桑對收繭量を調査するに左表の如し

事項	區別	甲	乙	丙	丁	區
給桑百貫對上繭量		八二〇	七八七七	八〇〇二	八〇九二	區
同 總收繭量		九三三三	九二一六	九四七三	九二六七	區

一、繭の品質も亦右と同一の成績を示し給桑回數の多きものは一般に繭巢大にして且つ繭層厚く加ふるに大小不同の差少なし

- 一、要するに給桑回數の多きものは蠶兒の發育齊一にして從て諸種の點に於て優れるを認む
- 一、故に當業者は可及的丙區に準據したる給桑法を用ふるを可とす

生種冷蔵試驗

技 手 長 岡 哲 三

本試験は前年に繼續して之を施行せり其成績は前年と等しく生種冷蔵の有るなるを示せり
供試原蠶種(黑種)は前年秋季當場に於て採種せし二化性白龍にして採種後の取扱は普通の蠶種と異なるなく水洗後蠶種貯藏器に收めたり而して發生を遅延せしめんが爲め普通蠶種に後るゝこと十六日(五月十二日)にして之を取り出し火氣なき清涼なる廊下に於て自然催青を行ひ只氣温低きに過ぐる場合のみ之れを室内床上に移し幾分加温せり然れ共貯藏器より取出したる後僅かに四日目即ち五月十五日に於て大部の發生を見るに至れり是れ貯藏中既に胚子の發育せるによるものゝ如し而して孵化の狀況は二化性第一化の蠶種としては普通なりき催青中に於ける温度及湿度を示せば左の如し

原蠶種催青温湿度表

室 外			室 内		
最高	最低	平均	最高	最低	平均
八二度	五二度	五九七度	七五度	五九度	六八六度
最高	最低	平均	最高	最低	平均
九二度	四〇度	七三二度	六九度	五三度	六二二度

五月十五日午前十時蟻量五分を収め廊下に蠶架を設け火力を使用せずして飼育せり天候は第一齡前半期にありては概ね晴天にして気温は常に高く最高気温は連日八十度内外を示し殊に第三日の如きは八十九度の高きに上れり加之湿度は三十三度乃至四十度にして空気の乾燥甚たしかりしかば或は屋内に濡藎を敷き或は屋の内外に撒水する等減熱補濕に力を用ひたりしも依然として高温乾燥を免れざりき故に蠶兒の營養に不足なからしめんとするに共幾分補濕の目的を達せん爲め給桑の回数と其量を増し且つ剉桑寸法をも大ならしめたり然るに第四日に至り降雨ありて気温俄然下降し最高気温僅かに七十三度を示すに過ぎず爾後第一眠に至る迄は概ね曇天又は雨天にして気温常に低かりき第二齡にありては前齡と同しく餉食より三日間は概ね快晴にして気温高く且つ乾燥せるも其後半期には二日に互る降雨あり且つ催眠に際し気温著しく低下せるを以て一時蠶兒を室内に移して就眠せしむるの止むを得ざるに至れり第三齡は概ね曇天にして末期に降雨あり故に気温常に高からず外氣の影響著しく且つ火力なき廊下は濕氣一層多く過濕の傾なき能はざりき然れ共第四齡に至りては気温順に復し温濕共に其適度を得第五齡に至りては降雨なく気温稍々高く空氣亦乾燥せるを以て蠶兒は食桑旺盛に發育迅速なりき今育蠶中の温度及湿度を示せば左表の如し

飼育中氣象表

蠶齡	室				外				室				内			
	最高	最低	平均	湿度	最高	最低	平均	湿度	最高	最低	平均	湿度	最高	最低	平均	
第一齡	八九度	四七度	六六三度	九三度	三三度	六八五度	八四度	五四度	六八六度	八八度	四三度	六九一度				

蠶齡	全齡	第五齡	第四齡	第三齡	第二齡
最高	九〇	八八	八六	八三	八〇
最低	四七	四五	四三	四〇	三九
平均	六六六	七一一	七二〇	七二六	七三一
湿度	一〇〇	一〇〇	九三	九三	九三
最高	三三	四〇	四〇	三九	三三
最低	六八五	七二二	七二三	七二二	六八五
平均	八四	八三	八二	八二	七四
湿度	五四	六〇	六二	五八	五八
最高	六八六	七二四	七二七	六九七	七五四
最低	九三	八八	八九	九三	八八
平均	四三	六二	五九	五五	四八
湿度	七六三	七五四	七四八	七九五	八二七

各齡に於ける蠶兒發育の狀況は左の如し

蠶兒發育經過表

蠶齡	目標		飼掃	食立	催	熟眠	上停	簇食	竣	號	食中	中	日	合	數
	第一齡	第二齡													
第一齡	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	七十三時間
第二齡	午前十二時	午後八時	午前十二時	午後八時	午前十二時	午後八時	午前十二時	午後八時	午前十二時	午後八時	午前十二時	午後八時	午前十二時	午後八時	六十八時間
第三齡	午前九時	午後五時	午前九時	午後五時	午前九時	午後五時	午前九時	午後五時	午前九時	午後五時	午前九時	午後五時	午前九時	午後五時	六十八時間
第四齡	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	五十九時間
第五齡	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	午前六時	午後二時	五十九時間
全齡	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	午前十五時	午後十一時	七十三時間

天候の結果により稚蠶期には蠶兒の發育稍不齊なりしも壯蠶期には其齊一迅速なるを認めたり左表遲蠶頭數表は之を説明するものとす

蠶業 生種冷蔵試験

運蠶頭數表 (對蟻量一匁)

第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	合計
八三	六四	六四	三三	二三〇

上簇は六月十五日に行へり其狀況は佳良にして簇中一の斃蠶を見ず其收繭量は左表の如し

收繭表 (對蟻量一匁)

上繭	下繭	同功繭	合計	一鉢の顆數
容量 二五九	容量 〇六	容量 五〇	容量 四七四	二七六
重量 二五九	重量 〇六	重量 五〇	重量 四七四	三〇六三
合計 二五九				三五〇

繭形は小にして繭質不良なり是れ二化性一化の性質として止むを得ざるものとす

繭質調査表

十長	十幅	十生	十繭	十層	十繭	十顆	十皮	十繭	十最	十合
11011	07511	07079	07100	07100	07100	07100	07100	07100	07100	07100
10711	07511	07079	07100	07100	07100	07100	07100	07100	07100	07100

右の成繭より種繭を撰別し清涼なる室内に置きたるに上簇後十三日即ち六月二十七日より化蛾し初め十六日目即ち同三十日に至り其大部を了せり種繭保護中及採種中の天候は適順にして温度及湿度は左表の如し

種繭保護中及採種中温湿度表

月日	室内				室外				室内			
	最高	最低	平均	湿度	最高	最低	平均	湿度	最高	最低	平均	湿度
六月十四日	八四	八四	八四	八五	八五	八五	八五	八五	八六	八六	八六	八七
十五日	七三	六八	七〇	八八	七八	七八	七八	八二	七〇	七〇	七〇	七三
十六日	七三	六八	七〇	八八	七八	七八	七八	八二	七〇	七〇	七〇	七三
十七日	八〇	六四	七二	八八	七八	七八	七八	八二	七〇	七〇	七〇	七三
十八日	八〇	六四	七二	八八	七八	七八	七八	八二	七〇	七〇	七〇	七三
十九日	九〇	六三	七六	九三	七四	七四	七四	八三	七七	七七	七七	七九
二十日	七七	六六	七二	九三	七四	七四	七四	八三	七七	七七	七七	七九
二十一日	七六	六六	七一	八八	七二	七二	七二	八二	七六	七六	七六	七九
二十二日	七六	六六	七一	八八	七二	七二	七二	八二	七六	七六	七六	七九
二十三日	八八	六六	七六	九三	七四	七四	七四	八三	七七	七七	七七	七九
二十四日	七六	六六	七一	九三	七四	七四	七四	八三	七六	七六	七六	七九
二十五日	八七	七一	七八	九四	六二	六二	六二	八二	七三	七三	七三	七六
二十六日	八九	七〇	七八	八八	五三	五三	五三	八二	七三	七三	七三	七六
二十七日	八七	六九	七六	九四	六三	六三	六三	八二	七三	七三	七三	七六
二十八日	八八	六八	七六	九四	五八	五八	五八	八二	七三	七三	七三	七六
二十九日	八九	六八	七六	九四	五八	五八	五八	八二	七三	七三	七三	七六

蠶業 生種冷蔵試験

三十日	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
七月一日	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
最高	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
最低	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
平均	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

当期製造せる蠶種は三十九枚にして此蠶種中六月二十七日産卵のもの及同二十八日産卵のもの各二枚は同二十九日に金鳥山に送り三十日に至り更に二十八日産卵のもの二枚を送れり前二者は同月三十日後者は七月一日同地の風穴に貯藏せり貯藏期間は二十日にして甲乙丙區便宜上前三者を甲乙丙區と名づくは七月二十日に丙區は七月二十一日に出穴し前二者は七月二十一日に後者は同二十三日に當場に到達せり貯藏中に於ける風穴内の温度及湿度表は左の如し

貯藏中風穴内温湿度表

月日	温湿度	最高	最低	平均	湿度	平均
六月三十日	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇
七月五日	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇
七月十日	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇
七月十五日	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇
七月二十日	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇

蠶種到着後清涼なる蠶室に於て催青を行へるに出穴後七日目即ち甲及丙區は七月二十六日乙區は同二十七日より發生し三區ともに二十九日に至り發生を終れり今催青中の温度及湿度を示せば左表の如し

催青温湿度表

區別	室内			室外			室内			室内		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
甲區	八九	六七	七八	九四	五八	八四	八四	六六	七七	九四	六五	八二
乙區	八九	六七	七八	九四	五八	八四	八四	六六	七七	九四	六五	八二
丙區	八九	六七	七八	九四	五八	八四	八四	六六	七七	九四	六五	八二

蠶發生狀況は左の如し

蠶發生調査表

月日	甲區			乙區			丙區		
	歩數	歩合	%	歩數	歩合	%	歩數	歩合	%
七月二十六日	二四五	三八	一五	二四九	三八	一五	二六四	三八	一五
同 二十七日	六〇六	九三	一五	二四九	三八	一五	三九三	三八	一五
同 二十八日	一六五	二六	一五	三五五	五八	一五	五六一	五八	一五
同 二十九日	一五	一〇	一五	二七八	四四	一五	七二六	八〇	一五

計	六四六	1000	六三六	1000	九〇七	1000
不發生卵	二九三	一五六	六六九	九六	一三四	一三一

前表に依りて之れを見るに發生卵の最も少なりしは乙區にして丙區甲區は順次之に次ぎ産卵後三日目に入穴せしめたるものは四日目に入穴せしめたるものより不發生卵少なりし然れ共發生の齊一なる點に於ては四日目入穴の甲區首位を占め一日に九十%以上の發生を見たり而して丙區之れに次ぎ乙區最も不齊なりき故に甲區より其の最多發生日なる第二日に於て蟻量三分を收め飼育に供せり

飼育中の氣候は第一、第二齡中において曇天打ち續き従つて多濕なりしかば幾分蠶兒の發育不齊なるを免れざりしも第三齡に至り晴天連日に互り加ふるに乾燥適度なりしを以て發育頗る齊一に且つ健全なりき第四、第五齡も亦天候適順にして蠶兒の食桑旺盛を極め比較的飼育日數短く十九日四時間にして八月十五日午後二時上簇せり飼育中の温湿度及蠶兒發育の經過を示せば左表の如し

全齡温湿度表

齡別	室			外			室			内		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
第一齡	九二	七二	七六	九四	六二	八八	八五	七四	七八	九四	九四	九二
第二齡	九四	七八	八四	九四	五九	八六	八六	七八	八〇	九四	九四	七七
第三齡	九八	七八	八四	九五	五九	八八	八八	七六	八七	九〇	九〇	八三
第四齡	九三	七二	八二	九四	四五	八六	八六	七四	八〇	九〇	九〇	八四
第五齡	九四	七三	八二	九四	五一	八二	八二	七五	八〇	九四	九四	八二
全齡	九八	七三	八三	九四	四五	八〇	八〇	七四	八〇	九四	九四	八三

蠶兒發育經過表

齡別	目標		飼掃		食立		催催		眠熟		上停		廢食		竣脱		食桑中		停食中		合計		
	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	
第一齡	七月二十七日	七月三十一日	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時
第二齡	八月三日	八月七日	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時
第三齡	八月八日	八月十二日	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時
第四齡	八月十三日	八月十七日	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時
第五齡	八月十八日	八月二十二日	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時
全齡	七月二十七日	八月二十二日	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時

尙ほ遅蠶頭數を表示すれば左の如し

遅蠶頭數表 (對蟻量一匁)

第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	合計
二三八	100	二四八	二二九	七五五

右表の如く遅蠶頭数少きにあらざりしも病蠶と認むべきものなく何れも結繭せり
給桑量及蠶兒の體量は左表の如し

給桑表 (對蠶量一匁)

第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	合計
二五五	二七〇	二九〇	三三〇	六九五	二八〇〇
三七一	二五五	二九〇	三三〇	六九五	二八〇〇
二五五	二七〇	二九〇	三三〇	六九五	二八〇〇
三七一	二五五	二九〇	三三〇	六九五	二八〇〇

蠶兒體量表 (對百頭)

第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡
〇・〇一〇五	〇・〇一四三	〇・〇一八七	〇・〇二四九	〇・〇三二七
〇・〇一〇五	〇・〇一四三	〇・〇一八七	〇・〇二四九	〇・〇三二七
〇・〇一〇五	〇・〇一四三	〇・〇一八七	〇・〇二四九	〇・〇三二七
〇・〇一〇五	〇・〇一四三	〇・〇一八七	〇・〇二四九	〇・〇三二七

收繭量及繭の品質は左表の如し

收繭表 (對蠶量一匁)

上繭	同功繭	下繭	合計
二〇七	一八四〇	四〇〇	二四六七
二〇七	一八四〇	四〇〇	二四六七
二〇七	一八四〇	四〇〇	二四六七
二〇七	一八四〇	四〇〇	二四六七

繭質調査表 其一

十長	十幅	十生	十繭	十繭	十繭	十繭	十繭	十繭	十繭
10.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
10.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
10.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
10.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5

其二

最長	最短	平均	一繭絲量	一外繭量	最太	最細	平均	類節	切斷
六〇〇	四六五	五四〇	〇・〇三九	一〇七五	二七	二二	二四	〇七	〇五
六〇〇	四六五	五四〇	〇・〇三九	一〇七五	二七	二二	二四	〇七	〇五
六〇〇	四六五	五四〇	〇・〇三九	一〇七五	二七	二二	二四	〇七	〇五
六〇〇	四六五	五四〇	〇・〇三九	一〇七五	二七	二二	二四	〇七	〇五

備考 一外繭の絲量は一繭の絲量に一外繭の頭数を乗したるものなり

右の諸表に依るに繭品質は秋蠶としては優良なりと云ふを得べし

結論

本春の如き氣候の變化甚たしき年に於て加温等の勞を加へずして原蠶を飼育し且つ之より製造せる蠶種を貯藏せる風穴は其の温度甚た低しと云ふ能はざるに拘はらず如上の成績を収め得たるより考ふるに朝鮮に於ける生種の冷蔵は容易に其目的を達し得べきを信す而して此成績は前年と全く其揆を一にせり

秋蠶飼料試験

技手 長岡 哲三

蠶種を冷蔵して其發生を抑制する場合に於て産卵時期の遅きものは其早きものに比し不發生卵を生ずること多く其割合は時期の遅きに比例して遞加すとは一般に認むるところなり而して其原因に就ては未だ研究調査せるものなしと雖産卵の晩きもの即ち飼育時期の遅きものは用桑中の滋養分減少するか爲め蠶兒は營養不良に陥り従て不發生卵を生ずること多しとの説あり故に當場は桑葉中に含有する滋養分の多寡は蠶兒の發育繭質及産卵に如何な

る關係を及ぼすものなるやを知らんごし外觀上硬軟の度を異にし従つて滋養分に多寡あるを認むべき異種又は同種中の部位を異にする四種の桑葉を以て蠶兒を養ひ第一年に於ては蠶兒の發育經過並に繭質に及ぼす關係を察し次年に於ては之れより得たる蠶種と初年の用桑との關係を調査せり其成蹟の概要を記せば左の如し

第一年試驗 (明治四十四年)

供試蠶種は二化性第二化の白龍にして第四齡迄は同一の飼育をなし第五齡起除沙の際健蠶二千四百頭を撰出し之を四區に分ち除沙後即ち第六回の給桑より左記の如く給桑を異にせり

第一區 魯桑中葉 常に條の中部に位せる葉を給す

第二區 魯桑下葉 常に條の下部に位せる葉條の基部より上方五六枚を給す

第三區 魯桑實生下葉 同前前年實播を行ひたるものより中發育不良なるものを代出したる苗木なり

第四區 多胡早生 梢端五六枚を残し他を摘採して與へたり

試驗着手後三日(八月二十日)に於て右各區桑葉の化學的分析を行ひたるに其成蹟は左表の如し

成分種別	分析表			
	魯桑中葉	魯桑下葉	魯桑實生下葉	多胡早生
水	七三〇・八七	七〇五・五五	七二五・五四	七二一・三五

乾物	乾物百分中			
	魯桑中葉	魯桑下葉	魯桑實生下葉	多胡早生
粗蛋白質	二四・五三三	二二・三三七	二四・九五五	一七・三三四
純蛋白質	一八・三五一	一七・一六八	二二・一八五	一四・九二二
脂肪	六・七六八	六・九五九	四・九七六	四・〇三五
纖維	一〇・四二九	一〇・一九七	九・一〇八	二二・八七〇
灰分	一一・九五二	一三・八五九	一一・八八七	一四・一〇八
可溶無窒素物	四六・三三〇	四七・五四八	五九・〇九四	五二・九五二

備考 右分析は當場技手上杉綱雄之を行へり
右の分析表より生葉百分中に含有する諸成分の量を算出すれば左の如し

成分種別	魯桑中葉				魯桑下葉				魯桑實生下葉				多胡早生					
	粗蛋白質	純蛋白質	脂肪	纖維	灰分	可溶無窒素物	粗蛋白質	純蛋白質	脂肪	纖維	灰分	可溶無窒素物	粗蛋白質	純蛋白質	脂肪	纖維	灰分	可溶無窒素物
粗蛋白質	六六・〇二	四九・三九	一八・二二	二八・〇七	三二・二六	二二・四六六	六二・八三	五〇・五五	二〇・四九	三〇・三三	四〇・八〇	一四・〇〇二	四二・四八	三三・四六	一四・三三	二二・五九	三三・五八	一六・七九四
純蛋白質	四九・三九	一八・二二	二八・〇七	三二・二六	二二・四六六	二二・四六六	五〇・五五	二〇・四九	三〇・三三	四〇・八〇	一四・〇〇二	三三・四六	一四・三三	二二・五九	三三・五八	一六・七九四	一四・三九二	
脂肪	一八・二二	二八・〇七	三二・二六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二〇・四九	三〇・三三	四〇・八〇	一四・〇〇二	一四・〇〇二	一四・〇〇二	一四・三三	二二・五九	三三・五八	一六・七九四	一四・三九二	
纖維	二八・〇七	三二・二六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二〇・四九	三〇・三三	四〇・八〇	一四・〇〇二	一四・〇〇二	一四・〇〇二	二二・五九	三三・五八	一六・七九四	一四・三九二	一四・三九二	
灰分	三二・二六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二〇・四九	三〇・三三	四〇・八〇	一四・〇〇二	一四・〇〇二	一四・〇〇二	二二・五九	三三・五八	一六・七九四	一四・三九二	一四・三九二	
可溶無窒素物	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二二・四六六	二〇・四九	三〇・三三	四〇・八〇	一四・〇〇二	一四・〇〇二	一四・〇〇二	二二・五九	三三・五八	一六・七九四	一四・三九二	一四・三九二	

即ち蛋白質の含量は魯桑中葉最も多く魯桑下葉之れに亞き魯桑實生下葉最も少なく多胡早生は第三位にあり

各區給桑の回数及量を同させるに蠶兒の發育經過に多少の遲速を生したるを以て給桑の量にも亦多少の差異を生したり此の如く發育に遲速を生せる原因は主として桑葉の關係にあるは明らかなり今蠶兒の經過給桑回数及其量を表示すれば左の如し

蠶兒の經過並に給桑表

區別	事項	餉食	試驗着手	催熟	上簇	食桑日數	給桑
第一區	同	八月十四日 午前九時	八月十五日 午後一時	八月十八日 午後九時	八月十九日 午後五時	二十四時間	四回 二六六四三
第二區	同	同	同	八月十九日 午前八時	八月十九日 午後十二時	三十五時間	四回 二六九四三
第三區	同	同	同	八月十八日 午後十一時	八月十九日 午後八時	二十四時間	四回 二六八四三
第四區	同	同	同	同	同	二十三時間	四回 二六八四三

備考 給桑量は餉食より上簇迄の蟻量一匁に對するものを示せり又各區の體量及繅沙量を調査せるに左表の如し

蠶兒體量並に繅沙量表

區別	事項	體量 (對百頭)	繅沙
第一區	第三十一回給桑後	六六五	一四二
	第三十五回給桑後	七三五	一三八
	第三十一回給桑後		一四二
	第三十五回給桑後		一三八
	第四十回給桑後		二二三

區別	事項	體量 (對百頭)	繅沙
第二區		五七五	一五七
第三區		六一五	一六二
第四區		六二〇	一四八

備考 本表調査以前の給桑回数及量は各區同一なり

前表に由るに體量は第一區魯桑中葉給與區最も重く第三區魯桑實生下葉給與第四區多胡早生給與は之に亞ぎて互に相同く第二區魯桑下葉給與は最も輕かりき繅沙量にありては第三十一回給桑後及第三十五回給桑後は共に體量の最も重き第一區最も少なく體量の第二位にありし第三區及第四區は第一回と第二回とに於て順位を異にせるも第二位又は第三位にあり體量の最も輕かりし第二區の繅沙量は最も多かりき然るに第四十回給桑後にありては全く之に反し第一區最も多く第二區最少となれり是れ蠶兒發育經過の遲速に關係せるものにして前表に示す如く第一區は上簇最も早く第二區は上簇最も遅かりしを以てなり而して桑葉の硬軟厚薄に依りて乾燥の程度を異にするが故に繅沙量の多寡は必ずしも食桑量の多少を示すものにあらざれども體量の輕重と繅沙量の多寡と互に相一致せるより見れば繅沙量の少きは蠶兒の食桑量多かりしことを示すものなりと云ふを得べし

收繭表 (對蟻量一匁)

區別事項	上 繭		下 繭		同 功 繭		合 計		一 斤 の 粒 數
	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量	
第一區	二〇五〇	二〇八八	二二五	一〇〇	二五〇	二六三	二四二五	二四五〇	二八四
第二區	一六二五	一六七五	二二五	一一三	八八	八八	一八三八	一八七五	三八〇
第三區	一七五〇	一七五〇	二二五	一〇〇	一八八	二二三	二〇六三	二〇六三	三四〇
第四區	一六二五	一六八八	二二五	一五〇	二二五	一一三	一八七五	一九五〇	三五六

備考 本表は第五齡起蠶數蠶量一々に付七千五百頭として計算したるものなり
前表に由れば體量の輕重と收繭量の多寡は正比例をなせるを見る

繭 調 査 表 其 一

區別事項	十 類 平 均		繭 量	繭 層 量	繭 桶 量	十 皮 量	繭 層 歩 合
	長	幅					
第一區	一〇、六九	五、〇五	三六、六〇	四、八〇	三、三六〇	〇、一〇	一一、一一
第二區	九、六七	四、七七	二八、五三	三、五五	二、五〇	〇、一八	一一、九
第三區	一〇、一四	四、九〇	三三、一〇	三、五五	二、八五〇	〇、一五	一一、〇一
第四區	一〇、〇〇	四、九〇	三三、八八	三、五三	二、八二〇	〇、一五	一一、〇七

同 其 二

區別事項	最 長 最 短 平 均		一 類 絲 量	最 太 最 細 平 均	類 節 切 斷
	長	幅			
第一區	五、〇	四、〇	三、九一	三、〇四	一、六
第二區	五、四〇	四、〇〇	二、八五	二、〇八	〇
第三區	五、〇〇	三、八〇	二、八七	二、三八	一、〇
第四區	六、二〇	四、五〇	三、六〇	二、四〇	〇

繭の品質も亦第一區最も優り第四區之に亞ぎ第二區最も劣り第三區は第三位にあり

要 說

一、以上の事項を綜合するに化學的分析上蛋白質の最も多き魯桑の中葉は蠶兒飼養の成績及繭質共に最も佳良にして蛋白質の含量第三位にある多胡早生は收繭量に於て第三位に位せるも繭の品質にありては第二位に上り蛋白質の最も少なき魯桑實生は繭の品質は第三に下りたるも他の成績は第二位を占めたり

一、蛋白質の第二位にありし魯桑下葉を給與せるものは蠶兒飼養の成績及繭の品質共に最も劣等なりしは葉硬きに過ぎ蠶兒の之を食するを好まざる爲めなるべし蠶兒發育經過の最も緩慢なりしことは能く之を説明するに足る

一、要するに硬軟其度に適し蛋白質の含量最も多き桑葉は蠶兒の發育を佳良ならしめ繭の品質をして優良ならしむるものとす

第 二 年 試 驗 (大 正 元 年)

前年に於て給桑を異にして飼育せる蠶兒をして發蛾産卵せしめ之によりて得たる各區の蠶種は本年三月一日冰山風穴に收容せり而して七月十五日之れを取り出し同月二十日當場に到着したる後各區同一の方法を以て催青を行ひ二十七日掃立を行ひたり催青中に於ける温

度及湿度は左表の如し
催青中温湿度表

目次	室内			外			室内			内		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均	最低	最高
平	七六〇	六三〇	九二〇	七九九	五八〇	九四〇	七六五	六六〇	八五〇	八三〇	六五〇	九四〇

蠶卵孵化の状況は左表の如し

發生調査表 其一

月日	區別	第一區	第二區	第三區	第四區
七月二十六日		二六七	二七五	二九七	三二四
同 二十七日		五四七	四三七	五〇九	四八〇
同 二十八日		二二五	三四八	三〇五	二四三
同 二十九日		七〇一	一四四	一四二	一〇六
同 三十日		四五二	四三八	七七八	三五四
同 三十一日		一九七	一七六	缺調査	缺調査
計		九三五	一〇一四	一〇六八	九三三
不發生卵		一〇四	一七四	九四九	七二六

總卵數

10001	2862	2647	9959
-------	------	------	------

尙ほ其の發生歩合を示せば左の如し

同 其二

月日	區別	第一區	第二區	第三區	第四區
七月二十六日		二九二	二七二	二七六	三四八
同 二十七日		五九二	四二七	四七六	五二〇
同 二十八日		二二〇	三四三	二九〇	二六八
同 二十九日		七二二	一四二	一三二	一三二
同 三十日		四八二	四三〇	七二七	三八三
同 三十一日		二二七	一七六	缺調査	缺調査
計		一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
發生卵歩合		八九六	八五三	九一八	九二七
不發生卵歩合		一〇三四	一四六	八二八	七二九

前二表に依りて見るに不發生卵の最も多かりしは第二區にして最も少かりしは第四區なり
第一第三の兩區は共に中間に位すれども第一區は第三區より遙かに多かりき又發生の齊否
に於ては第一區最も齊一なりき即ち二日間に八十二%以上に達したるか如きは他區に見さ
るところなり今發生状況を以て前年に於ける各區用桑の成分に對照するに蛋白質の第三位

にありし多胡早生及第四位にありし魯桑實生を以て養ひたる蠶兒の産卵が却て蛋白質の量多かりし魯桑中葉給與區及同下葉給與區に比し不發生卵多かりき然れども第一區と第二區とを比較し又第三區と第四區とを比較すれば蛋白質量の多きものは其少きものより不發生卵少きを見るべし而して發生の齊否に就て考ふれば蛋白質の量第三位にありし多胡早生給與區は第二位にありし魯桑下葉給與區よりも發生狀況齊一なりき此の如く成蹟區々にして定まらざるを以て前年給桑中に含有せる蛋白質の多寡は不發生卵の多少及發生の齊否に影響するや否明かならずと云はざるべからず

又各區最多發生の日に於て蠶蠶の體量を調査せるに第一區最も重く第二區之に次ぎ第四區最も輕かりき是れ蛋白質の多寡に正比例したれども第三區の第四區より却て重かりしは發生の齊否に反せり即ち左表の如し

蠶蠶體量表 (對百頭)

第一區	第二區	第三區	第四區
0.011g	0.010g	0.010g	0.009g

右の蠶蠶中より各區蠶量二分を收めて飼育し生育狀況及收繭量を調査せり飼育期間の氣候は概ね晴天乾燥にして蠶兒の發育常に佳良なりき故に一頭の病蠶をも發生せず氣候及蠶兒發育經過左表の如し

溫濕度表

事項	室內		外		室內		內	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
第一齡	九三	七三	九四	五九	八五	七四	九五	七五
第二齡	九四	七六	九四	五九	八六	七八	九五	七七
第三齡	九八	七六	一〇〇	五九	八八	七八	九五	七七
第四齡	九三	七六	九四	五九	八八	七八	九五	七七
第五齡	九四	七三	九五	五九	八七	七八	九五	七七
平均	九八	七三	一〇〇	五九	八八	七八	九五	七七

蠶兒經過表

區別	事項	飼掃	食立	催催	熟眠	上停	簇食	竣	脱	食桑中	停食中	合數
第一齡	第一齡	午前七時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	三日五時間	十七時間	三十二時間
第二齡	第二齡	午前八時十八日	午前八時十八日	午前八時十八日	午前八時十八日	午前八時十八日	午前八時十八日	午前八時十八日	午前八時十八日	二日八時間	十六時間	三十三時間
第三齡	第三齡	午前八時十九日	午前八時十九日	午前八時十九日	午前八時十九日	午前八時十九日	午前八時十九日	午前八時十九日	午前八時十九日	二日十二時間	二十時間	三十四時間
第四齡	第四齡	午前八時二十日	午前八時二十日	午前八時二十日	午前八時二十日	午前八時二十日	午前八時二十日	午前八時二十日	午前八時二十日	三日二時間	一日五時間	三十四時間
第五齡	第五齡	午前八時二十一日	午前八時二十一日	午前八時二十一日	午前八時二十一日	午前八時二十一日	午前八時二十一日	午前八時二十一日	午前八時二十一日	四日十四時間	三日十時間	三十四時間
全齡	全齡	午前七時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	午前八時十七日	十七時間	三十時間	三十四時間

前表の如く第一區の發育は常に他區より齊一にして且つ幾分速かなるの傾向を呈し第三區は發育狀況最も不良なりき左表は明かに之を示すものとす

遅蠶頭數表 (對蟻量一匁)

區別	第一區	第二區	第三區	第四區	計
第一區	九五頭	三五頭	七五頭	一三〇頭	三五〇頭
第二區	二七五頭	三〇〇頭	一三〇頭	一〇〇頭	四三五頭
第三區	二〇〇頭	四〇〇頭	一〇〇頭	三〇〇頭	四〇〇頭
第四區	一五〇頭	四〇〇頭	七〇頭	一六〇頭	四〇〇頭

各區の發育經過は畧ぼ同しかりし爲め給桑の回数及其量は各區相同し即ち左表の如し

給桑表 (對蟻量一匁)

第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	合計
回数	回数	回数	回数	回数	回数
量	量	量	量	量	量
三八頭	二五五頭	二七頭	五七九頭	二九頭	二七二頭
量	量	量	量	量	量
三三頭	六九五頭	四三頭	二八〇四頭	一六八頭	三七七四頭

前表に示す如く各區の蠶兒は各同量の給桑によりて飼育せられたるに係はらず其體量に至りては各々相同しからず即ち第一區は常に重くして四區中の首位を占め第二區は第一區第二區を除きては常に第二位にあり第三區は壯蠶期に至り四區中最も輕き體量を示せり即ち左表の如し

蠶兒體量表 (對百頭)

區別	第一區	第二區	第三區	第四區
第一區	〇・一五二	〇・九七二	四・二八三	二・五三四
第二區	〇・一三九	〇・八九二	四・二二六	一九二五七
第三區	〇・一五二	〇・九五五	四・一三三	一八三七八
第四區	〇・一四七	〇・八七八	三・九三三	一八八三三

備考 第五區の蠶體量はその盛食期に於て其の他は各眠期に於て調査せし量なり
收滿量も亦各區相同しからず即ち左表の如し

收滿表 (對蟻量一匁)

區別	第一區	第二區	第三區	第四區
第一區	二九五	二七五	四〇〇	四二〇
第二區	二八〇	二六六〇	四五	四七五
第三區	二〇〇	一九四〇	三八	四一五
第四區	二四〇	二二五五	四〇	四五〇

前表に由るに上繭に於ても總收滿に於ても容量重量共に最も多かりしは第一區にして第二區之に次ぎ第四區更に之に次ぎ第三區最も劣れり
各區上繭十顆を取り其品質を調査せるに左表の如し

繭質調査表 其一

區別	目標	生繭			十顆			生繭十顆平均		
		最長	最短	平均	最長	最短	平均	繭量	繭層量	蛹量
第一區		113	105	109	0.56	0.49	0.53	4.26	0.53	3.80
第二區		112	102	105	0.55	0.48	0.51	3.87	0.49	3.35
第三區		111	101	106	0.54	0.46	0.50	3.97	0.49	3.50
第四區		115	104	108	0.53	0.48	0.50	3.76	0.45	3.51

前表に由れば繭の大きさに於ては第一區最も大にして他は殆んど逕庭なく而して繭層量歩合に於ては第二區最も多く第一區第三區之れに亞ぎ第四區最も少なりし尙ほ各區上繭の一粒繰調査の結果を見るに絲量の最も多きは第一區にして第二區第四區之れに亞ぎ第三區最も少なりき即ち左表の如し

同 其二

區別	目標	最長			最短			平均			一類絲量			一々の			對四百回			對四百回		
		最長	最短	平均	最長	最短	平均	絲量	一々の	最太	最細	平均	額節	切斷	額節	切斷	額節	切斷				
第一區		700	520	606.9	0.04	0.03	0.036	1.19	1.16	1.17	1.11	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01				
第二區		690	450	574.7	0.04	0.03	0.036	1.19	1.16	1.17	1.11	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01				
第三區		693	415	555.5	0.03	0.02	0.026	1.19	1.16	1.17	1.11	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01				
第四區		700	410	510.5	0.03	0.02	0.024	1.19	1.16	1.17	1.11	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01				

備考 一々の絲量は一々の顆數に一類の絲量を乗じたるものなり

第一區は絲長及絲量共に四區中の首位を占め第二區之に次ぎ第四區第三區は共に其の下位にあり然れ共一々の換算絲量は第一第二の兩區殆んど逕庭なく第四區は前二者に亞ぎ第三區は常に下位にありき又額節の少なきは第一區にして最も多きは第四區なりき
更らに給桑百貫々に對する繭量を計算せしに左の如し

給桑對收繭表

區別	目標	繭容量	同上重量	上繭容量	同上重量
第一區		796.0	740.0	78.4	729.3
第二區		744.0	720.0	74.2	704.9
第三區		588.0	528.0	73.0	514.2
第四區		653.0	614.0	63.6	597.5

給桑百貫目に對する總收繭及上繭共に第一區に於て最も多く第二第四區之に次ぎ而して第三區常に最下位にあり

結論

第一年に於ける蠶兒飼養の成績及繭の品質は蛋白質量の最も多き魯桑中葉を給與したる第一區に於て最優良にして其他は何れも劣りたり故に給桑中に於ける蛋白質含量の多寡は蠶兒の發育經過及繭質に關係を及ぼすものなるを示すものに似たり然れ共他區の成績必ずしも蛋白質量の多寡と一致せざるより察するに葉質の良否は單に蛋白質の多寡にのみ依りて

定むべからずして葉の硬軟も亦與りて力ありと云はざるべからず
 蠶兒飼養の成績及繭質の異なる各區の産卵に付き調査せる結果は前既に記せる如く又原蠶
 の給桑と産卵の良否とを考ふるに蛋白質の最も多き桑葉にて養はれたる原蠶より得たる卵
 は其發生最も齊一なれども不發生卵の比較的多く之に反し蛋白質量の少なき桑葉にて飼養
 せる蠶兒の産卵は發生の齊一を缺きたるも不發生卵少かりし等原蠶の給桑に含有せる蛋白
 質量の多寡と發生の齊否との間に何等の關係あるを認むる能はず
 然れども第二年の蠶兒は常に其用桑を同くしたるのみならず又同一状態の下に養ひたるに
 も係らず原蠶の用桑最も良好なりし第一區は常に優良の成績を現はし他區の成績も亦多少
 前年の給桑中の蛋白質量の多寡に關係あるものゝ如し
 要するに外觀上硬軟適度なる桑葉は蛋白質量多く且つ蠶兒の飼養上最も適當なれども其粗
 硬なるものにおいて縦令稀に蛋白質量多きことあるも蠶兒の飼料として不適當なりと云
 はざるべからず

畜産

技師 菊池 爲行

當場飼養家畜は牛豚羊山羊及家禽其他蜜蜂等にして其の状況の梗概を擧ぐれば左の如し

種	類	成		計
		牛	積	
牛	飼牛現在數			

シンメンタル	九	一	〇	二	六
エアシャー	三	〇	〇	一	二
雜種	五	〇	一	二	一
朝鮮在來種	一	〇	〇	〇	一
計	一八	一	一	六	〇

シンメンタル種中牝四頭牡一頭は本年十月農商務省七塚原種畜牧場より譲受けたるもの
 に係り従來飼養中のものと共に生育佳良なり本年度に於ける牝の生産はシンメンタル種
 牡一頭同雜種牝二頭エアシャー種牝一頭とす
 今牝牛の種類及其産次別の搾乳量は左の如し

搾乳表

種	類	産次	頭數	一頭平均搾乳量	一頭平均搾乳日數	平均一日の量	一頭一日の量
エアシャー	第一産	二頭	四六四〇	三五九	二二九	二八八	
同	第二産	二頭	四四八〇	三六六	二二九	二八八	
シンメンタル	第一産	二頭	二八五八	二七四	一〇四	二二九	
同	第二産	二頭	三八一九	二五二	一五二	二二九	
朝鮮在來種	第一産	一頭	一二七八	一九七	六五	一〇五	
同	第二産	一頭	九三八	一五三	六一	一〇五	

畜産 牛

全	第三産	一	一九六六	二五四	七六	二二七
---	-----	---	------	-----	----	-----

備考 乳量は封度を以て單位とす一封度は約二合五勺
 餘勢種付 本年度中民有牝牛に餘勢種付を行ひたる頭数は左表の如し
 民有牝牛種付表

種牝牛	牝牛頭數	産		牝牛の事故		不明
		牝	産	牝	産	
シンメンタール	六八	二〇	二二	九	一	二〇
エーアシャール	二四	三	三	一	〇	二
計	八二	二三	二六	二九	一	二二

備考 不妊の多きは農繁期劇役に服せしむに原因し又不明の多きは妊牛の轉賣所有者の轉居頻繁なるによる

豚

種類	飼豚現在數		
	成	仔	計
パークシャール	六	二	八
ヨークシャール	一	〇	一
朝鮮在來種	一	〇	一
計	八	二	一〇

豚の繁殖状態は前年度と異なることなく成績良好なり

羊

種類	飼羊現在數			
	成	仔	計	計
メソノール	一五	七	二二	三
シユロブシャール	四	〇	四	九
蒙古種	七	二	九	〇
計	二六	九	三五	四七

備考 蒙古種羊は本年七月關東都督府の寄贈に係れり
 蒙古種は毛質優良ならざるも體質頗る強健にして粗放の飼養管理に堪ゆるを以て朝鮮の現狀に適し當場に於ける輸入は日向は淺くして未だ其成績を公にする能はざるも今日に至るまでの情況より見れば結果良好なるものと如し

本種は蒙古地方の原産にして内外蒙古を主とし西は西藏伊犁の高原に及び東は吉林に達し其他支那各地に分布す蒙古にありては阿拉山地方を始め黄家坂大八梁西橋頭老王坎等の高原に多く滿洲に在りては松花江の沿岸小廟子より齊々哈爾に至る高原及大興安嶺の西海拉爾地方に多しとす

山

畜産 豚羊 山羊 家禽

種	山羊飼育在數		種	家禽		種
	成	仔		飼禽現在數	計	
マルタ雜種	二頭		名古屋	二頭	二頭	計
成	山	羊	コーチン			雄
牡			パレットドリマウス			雌
羊			ツク			雄
仔			白色レグホーン			雌
化			白色ワイアンドット			雄
山	二頭		黑色ミノルカ			雌
牡			アンダルシアン			雄
羊			雞			雌
計	〇頭		北			雄
			吐			雌
			京			雄
			鷲			雌
			計			雄
						雌
						計

養鶏は朝鮮農家の副業に適するものにして之を發達せしむるは農家經濟上肝要なりとす故に當場は從來飼育の結果と農家の現狀とに鑑み卵肉兼用種中朝鮮の氣候風土に適するブリマウスロット及名古屋コーチンを選定し之れが種禽及種卵を配付し以て養鶏の改良増殖を促かしつゝあり而して其の他の種類は今尙試験中に屬す

蜜 蜂

改良巢箱及在來巢箱を用る朝鮮在來種を飼育しつゝあり

勸業模範場支場

大邱支場

種 藝

技 師 三 浦 直 次 郎

水 稻

一、品種比較 當地方に適すべき品種を選出せんことを目的とし有望と認むべき内地稻及朝鮮稻を比較栽培せり五月二日種子量一步に付五合の割合にて播種し各區とも發芽生育良好にして苗質剛硬なりき六月二十二三日の兩日移植を行ひたり其の後の天候甚だしく乾燥せしかば生長一時遅緩なりしも七月中旬の降雨により勢力頓に恢復せり然るに八月上旬より再び用水缺乏し生育不良となり加之十月初旬に於ける結霜は大に成熟を妨げたり本年の成績は穀良都一反歩當玄米收量二石九斗七升第一位を占め光明錦同二石八斗三升四合石白同

勸業模範場支場 大邱支場 種藝

二石六斗九升五合之に次ぎ早神力鍋島高千穂明治錦多々租ボリペーチユチペー趙同知等相順次し倭租及關取最も劣れり而して明治四十三年以降三箇年平均收量一反步當玄米收量を見るに穀良都三石一升六合光明錦三石四升八合は伯仲の間にありて第一位を占め高千穂二石七斗五升四合早神力二石七斗二升五合之に次ぎ明治錦石白鍋嶋關取多々租倭租等相順次し趙同知チユチペー及ボリペーは甚だ劣れりとす故に當地方に最も適すべき品種は穀良都及光明錦にして早神力之に次ぐものゝ如し而して本年の狀況に徴するに内地稻は朝鮮稻に比し概ね早害に耐ゆる力強きものゝ如し

備考 穀良都と光明錦は性狀殆んど同一なり

二、窒素質肥料比較 水稻の肥料として大豆荏油粕、人糞尿及硫酸安母尼亞の効力如何を知らんと欲し前年に繼續して比較栽培を行へり各區一反步當三要素の量は窒素一貫目磷酸加里各二貫目とし磷酸及加里は窒素質肥料に含有するものゝ外は過磷酸石灰及木灰を以て補給せり播種移植等は種類比較に同じ本年の成績一反步當玄米收量は大石二石四斗七升三合最も優り荏油粕二石二斗四升二合之に次ぎ硫酸安母尼亞二石一斗三升五合更に之に次ぎ人糞尿最も劣れり此成績は前年と趣を異にす是れ本年の如き乾燥なる氣候は速効肥料よりも速効肥料の成績をして良好ならしむるを示すものゝ如し

三、荏油粕處理法比較 荏油粕を肥料となすに當り之を腐熟せしむると否とは稻の生育收量に如何なる關係を及ぼすやを知らん爲め之と比較栽培を行へり播種移植等は品種比較に同じ本年の成績は前年と趣を異にし腐熟せざるものは腐熟せるものより收量多く前者は其

の一反步當玄米收量二石一斗三升五合にして後者は二石三升一合なり是亦本年の天候は遅効肥料に有利なるを示すものゝ如し

四、肥料大豆用法比較 肥料大豆を施用するに當り之を腐熟せしむると否とは稻の生育收量に如何なる關係を及ぼすやを知らん爲め行ひたる比較栽培にして一反步當玄米收量は生大豆二石五斗三升四合の腐敗大豆二石三斗一升一合に優れるを示し是亦前記二比較と共に天候の肥料の効驗に及ぼす關係を示すものゝ如し

五、乾藻肥効比較 溜池より採取せる藻草を乾燥し肥料に用ひて價值ありや否を知らんとし乾藻百二十貫區及同三百貫區を設け普通肥料一反步に付堆肥百五十貫荏油粕十二貫過磷酸石灰三貫と其肥効を比較せり其成績一反步當玄米收量を見るに乾藻三百貫區二石八斗七升一合最も優り同百二十貫區二石六斗九升一合之に次ぎ普通肥料最も劣れり故に乾藻は水稻肥料として充分に價值あるを認むるを得べし

六、移植期比較 當地方にありては早魃の爲め適期に移植する能はざる場合尠なからざるを以て移植期と稻苗との關係を知らん爲め六月二十日より五日隔に移植を行ひ其成績を調査せり苗は早蒔と晩蒔の二種とし早蒔は五月五日に下種し晩蒔は五月二十日に下種せり其成績を見るに早蒔苗は六月二十日植一反步當玄米收量三石二升一合最優等にして六月二十五日植同二石五斗四升及七月五日植同二石二斗九升順次に亞ぎ晩蒔苗は七月十日植同二石五斗八升八合最優等にして六月三十日植同二石四斗二升八合之に次ぎ七月十五日植同一石八斗六升五合七月二十日植同一石八斗三升五合は共に劣れり

此の成績に據れば當地方に於ける稻の移植は六月二十日前後を適期とし移植すべき苗は下種後四十五日内外を適當とし移植期の甚だ晚きものに對しては晚蒔苗を仕立るを可とす

陸稻

陸稻に就きてはオイラン趙同知及黒鬚の生育収量及品質を比較せり播種は五月三日之を行ひ二尺隔の條播となし種子量は一反歩當四升とす肥料は一反歩に付堆肥二百貫荏油粕十貫過磷酸石灰五貫木灰六貫とし總て之を元肥とせり

氣候乾燥なりしに係はらず發芽及生育良好にして出穂期迄は異狀を認めざりしも成熟前に至り穂首稻熱病發生し各種とも収量を減するに至れり

本年の成績はオイラン(一反歩當収量四石七升五合)最も優等にして黒鬚(同三石七斗五合)之に次ぎ趙同知(同三石六斗)最も劣れり之を累年の成績に徴するも略其趣を同ふす故にオイラン種は南鮮地方にも適すべき品種なりと認むるを得べし

大豆

當支場は明治四十三年以降川越、白莢、白大豆、ビンボンダリー、オイアルコン、成昌清風等の品種に就き収量の多寡及品質の優劣を比較せり本年の成績は川越(一反歩當収量二石一斗四合)ビンボンダリー(同二石五升二合)の兩種最も優り白莢(同一石九斗七升七合)清風(同一石六斗九升二合)之に次ぎオイアルコン、白大豆成昌の三種は最も劣り其収量一石に充たざりき而して三箇年間の平均収量を見るに川越(同一石五斗四升四合)ビンボンダリー(同一石五斗一升八合)の兩種最多収量を示し白莢(同一石四斗七升四合)清風(一石三斗二升九合)之に次ぎ白大豆(同一石四升

九合)オイアルコン(同九斗六升三合)成昌(同八斗六升七合)の三者は其収量甚だ劣れり故に當支場地方に適すべき品種は川越、ビンボンダリーの二種なりと認むるを得べし

煙草

煙草は三月二十日苗床一步に付種子四分の割合にて播種し六月三日畦幅三尺株間一尺五寸に植付け一反歩に付き堆肥百貫荏油粕二十貫木灰十貫を施用し中耕二回除草二回摘心摘枝三回を行へり本年栽培せる品種は前年に等しく秦野、國分、及國府の三種にして移植後旱天打續きたる爲め初期の生育不良なりしも七月中旬の降雨により順に生長し八月四日より收穫を始むるを得たり本年の成績は秦野種最も優等にして一反歩収量五十九貫二十九匁に達し國分(同四十七貫四百匁)之に次ぎ國府(同四十一貫六百四十匁)最も劣れり明治四十二年以降各年の成績も之れと其の揆を一にし四箇年の平均成績を見るに秦野種五十五貫七百五十匁國分種四十三貫三十二匁國府種四十一貫六十三匁なり

苧草

苧草は四月二十五日播種す苗床は四月下旬鍬にて耕起し幅二尺長二間の高壟となし肥料には人糞尿三升荏油粕五合及藁灰五合を元肥とし又人糞尿一升を追肥として苧草の一寸位に生長したるとき施用せり種子は適宜の細砂を混合して撒播し薄く藁を被ひたり其の所要種子量は苗床一步に付一勺とし一反歩に對する苗床は四坪を要す床面の乾燥を防ぐ爲めには時々壟間に灌水し發芽後は兩三回に藁を除き一回除草を行へり本番には稻苗代跡を充て之を耕起したる後灌水し畔を塗り肥料を施し地均を行ひて移植す

第一表 一株の収量

區別	玄米収量	粃殻収量	藁収量	根株収量	總収量
葉面蒸發量區(平均鉢)	七三〇	二八五	一三〇〇	六〇〇	二九四五
葉面水面蒸發量區(右同)	八八〇	二九〇	一三二〇	七五〇	三二四〇

右表に於て差引計算により水面蒸發量を算出せんに兩區の葉面蒸發量相均しからざるべからず然るに右表は葉面蒸發量區の總収量と葉面水面蒸發量區の總収量と均一ならざるが故葉面蒸發量は其總収量と比例して増加するものと認むるにより兩區生産物の差即ち二匁九分五厘を生産するに要する葉面蒸發量を算出し以て葉面蒸發量區に加算し兩區の葉面蒸發量及び其の生産物總収量を均一ならしめ而して後葉面水面蒸發量區より葉面蒸發量區の要水量を減じ以て水面蒸發量を算出したり但し稻の組織構成水分は葉面蒸發量中に含有す左に葉面蒸發量及水面蒸發量を掲ぐべし

第二表 葉面蒸發量及水面蒸發量(二鉢平均)

月日	葉面蒸發量	水面蒸發量	葉面蒸發量	蒸發器の示す蒸發量	雨量
六月二十三日	二九七〇	六六〇五	九五七五	九九五	
同 二十四日	〇四二四	三二六二	三六七五	六二〇	
同 二十五日	二二一八	二五三三	四六五〇	一一三〇	四二

同 二十六日	一五九五	三三八〇	四九七五	七七〇	
同 二十七日	〇四六八	五〇三三	五五〇〇	七七〇	
同 二十八日	一三三八	六二六一	七五〇〇	九九九	
同 二十九日	二七五〇	五四二五	八二七五	一一七〇	
同 三十日	〇三八五	五九四〇	六六三五	九六〇	
七月 一日	〇五五〇	〇六〇〇	一三六〇	四七〇	五七〇
同 二日	〇五七八	〇九三三	一五〇〇	二四〇	〇一〇
同 三日	一六五〇	四二二五	五七七五	八一〇	
同 四日	一八九八	九五二七	一一四二五	一〇一〇	
同 五日	二八四〇	五四六〇	八三〇〇	一一三〇	
同 六日	〇八二五	二八五〇	三六七五	四二〇	六二〇
同 七日	一五二三	三〇二二	四二二五	六〇〇	
同 八日	一四〇一	四七三三	六一二五	九二〇	
同 九日	一二九三	六一三三	七四二五	八三〇	
同 十日	二六一三	三九六一	六五七五	六七〇	〇六〇
同 十一日	三三九五	四二〇〇	七七七五	一〇一〇	
同 十二日	三七九五	一六八〇	五四七五	六三〇	
同 十三日	三七九五	一八五七	四八〇〇	六一〇	一五六〇

日期	葉面蒸發量	水面蒸發量	葉面蒸發量	蒸發計の示	降水量
九月二十四日	四、三七三	〇、一〇二	五、〇〇〇	五、一〇二	
同 二十五日	五、四七三	〇、三〇二	五、七七五	五、一〇二	
同 二十六日	四、九三三	〇、七七七	五、七〇〇	五、六〇〇	
同 二十七日	四、七〇三	〇、九三三	五、六三五	五、五〇〇	
同 二十八日	三、四九三	一、五三三	五、〇三五	五、一〇〇	
同 二十九日	五、一九八	一、四〇二	六、六〇〇	六、九〇〇	
同 三十日	三、三〇〇	〇、八二五	四、一三五	四、四〇〇	
合 計	五、〇〇九	一、八〇六	六、九一五	六、四五四	二、七〇三

更らに之を十期に区分し各蒸發量の關係變化及降雨量を示せば次の如し

第三表 各期蒸發量

期間	蒸發量	葉面蒸發量	水面蒸發量	葉面蒸發量	蒸發計の示	降水量
第一期 自六月二十三日至七月二日	一、三〇六	四、一六〇	五、二三五	八、一三四	九、九〇〇	
第二期 自七月三日至七月十二日	二、二四五	四、五六〇	六、七〇七	八、〇三〇	一〇、一〇〇	
第三期 自七月十三日至七月二十二日	二、四九七	一、八七三	四、三六〇	五、九七〇	一六、二一〇	
第四期 自七月二十三日至八月十一日	五、五四六	二、六〇八	八、一五五	六、三六〇	六、六〇〇	
第五期 自八月十二日至八月二十一日	七、九六五	一、七三〇	九、六九五	七、三九〇	二、二八〇	
第六期 自八月二十二日至八月三十一日	七、四九〇	八、七五五	八、三六八	五、八四〇	四、二四〇	

各期平均	一日平均		合 計
	尺	耗	
第七期 自八月二十二日至八月三十一日	〇、〇六八	五、一〇〇	五、一〇九
第八期 自九月一日起至九月十日	〇、〇〇〇	一、八九〇	一、八九〇
第九期 自九月十一日起至九月二十日	〇、〇〇〇	六、九九二	六、九九二
第十期 自九月二十一日至九月三十日	〇、〇〇〇	六、四九〇	六、四九〇
合 計	〇、〇六八	一八、〇六二	一八、一三〇

右の成績による時は葉面蒸發量は移植後第三期迄徐々に増加し第四期に入りて激増し第五期に於て最も旺盛に行はれ爾後漸次減少せり即ち第五期は最盛期中の最多量期に屬し穂孕及出穂期に近づき居れり
 水面蒸發量は葉面蒸發量と常に相反し第一第二の兩期量も多く第三期より急に減少せり之れ第一第二期は稲苗の活着繁茂未だ充分ならず爲めに葉面の蒸發少く又株の水面を覆へること少なきが故に水面の蒸發量多きによるものなり
 葉面と水面との合計量は第四期に入りて激増し第五期は其絶頂に達し漸次減少し來り第八期より急に減少せり

本年の成績により稲の最盛期を第四期より第七期迄の四十日間とせば葉面蒸發量の最盛期平均一期分の量は全期平均一期分の約一、四〇八倍に相當し又最盛期中の最大量期は全期平均一期分の一、五五八倍に相當す

葉面水面蒸發量の最盛期平均一期分の量は全期平均一期分の一、二四倍にして最盛期中の最盛期は其の一、三八四倍に相當す

今參考の爲め硝子室内に於て觀測せる成績を擧ぐれば左の如し

第四表 硝室内に於ける蒸發量及收量表(二鉢平均)

葉面蒸發量區	蒸發量(百日間)	玄米收量	玄米、籾皮藁根の風乾物總量
葉面蒸發量區	四七、七二三	七、八〇	二九、一五
葉面水面蒸發量區	七三、〇二五	七、四五	二四、七五

右兩區の風乾物總收量相違せるを以て兩區に於ける蒸發量の差を以て直ちに水面蒸發量と見做すこと能はず葉面蒸發量は略ば風乾物總收量に比例するものと推測し得べきを以て兩區風乾物總收量の差四、四夕に對する分だけ葉面蒸發量より割引したるものを葉面水面蒸發量より減じ以て水面蒸發量を算出すれば次表の如き結果となる尙ほ同時に本年度の成績と前年度硝子室内に於ける成績を併記して對照に便にす

第五表の一

葉面蒸發量	水面蒸發量	葉面蒸發量	玄米收量	風乾物總收量	蒸發計の蒸發量
-------	-------	-------	------	--------	---------

本年度硝子室内	四〇六、四五四	三、六五七	七、四五	二四、七五	六四、五〇四
本年度室外	五二〇、九九	一、八九〇、一六	八、八〇	三二、四〇	六四、五〇四
前年度硝子室内	六九三、〇九	一、七九九、五二	八、七二九、八〇	九、五九	四一、九七〇

備考 前年度試驗には早生神力種を用ひたり又前年度室外の觀測は故障のため之を中止せり

前表を改算すれば次表の如き結果を得

第五表の二

本年度硝子室内	本年度室外	前年度硝子室内	風乾物總收量一匁に對する葉面蒸發量	風乾物總收量一匁に對する葉面水面蒸發量	蒸發計の示す蒸發量を一とせる比例	葉面蒸發量	葉面水面蒸發量
〇、〇三九	〇、〇三三	〇、〇四五	〇、〇三九	〇、〇六三	〇、〇六三	〇、〇三九	一、〇〇〇
〇、〇三三	〇、〇三三	〇、〇四五	〇、〇三三	〇、〇四六	〇、〇四六	〇、〇三三	一、〇〇〇
〇、〇四五	〇、〇四五	〇、〇四五	〇、〇四五	〇、〇七二	一、〇〇〇	〇、〇四五	一、〇〇〇

備考 此の表は風乾物總收量の多少相異なる場合に於ける成績を擧げたるものなれば此表の數字を以て直ちに蒸發量相互の比較をなすこと能はず然れども硝子室の内外及び本年と前年との如き年柄の相違より來る影響を觀察するに足るべし

本年は稲作期間降雨量僅かに二百七十耗三なるに前年の稲作期間降雨量は八百十七耗に及び其の影響として蒸發計蒸發量は反對の現象を呈し本年六百四十五耗前年四百十九耗七となれり前表によりて見るに葉面水面蒸發量は其地方の蒸發計の示す蒸發量に對し或一定

の比率を保つものにあらすして少雨多蒸發の年柄にありては其比率減少するものなるを知
るべし而して風乾物總收量の一定量を生ずる爲めに要せし絶體水量即ち葉面水面蒸發量は
本年と前年と年柄の甚しく相違せしに拘らず其の略は相似たるを見る

以上各種の調査に基き更らに要領を摘記すれば左の如し

蒸發器蒸發量と葉面水面蒸發量とは常に一定の比率を保つものにあらすして年柄により
て大差あり風乾物總收量に對する葉面水面蒸發量の比は年柄により差異を生ずること少
し

第二 滲透量

滲透量は地勢土質及び地層の状態又は地下水位等の異なるに従ひ同質の土地にても場所
より時期により一様ならず故に之が査定甚だ困難なりと雖も本調査は當支場の土地に於け
る滲透量の査定にして唯一例として參考に資するのみ

調査地の土質は壤土に屬し比較的保水力強し調査期間の地下水位は二尺五寸乃至四尺の間
にありて地勢は約五百分の一の勾配を以て傾斜す

調査器は亞鉛板製の無底有蓋圓筒にして直經三尺深さ三尺地中に二尺五寸を埋め觀測には
蓋の一部に設けたる五寸平方の小口に於てす此の小口は水蒸氣の漏減を防ぐに足る可き裝
置にて閉塞し觀測の方法は要水量調査と同法に依る其の成績は左の如し

第六表 滲透量

滲透量—水深(尺)—日本尺(尺)—同上—日平均

稻作期間(百日間)

二二九二七

〇四九九

〇〇〇四九九

右表によれば水深一三九一一七にして之に葉面水面蒸發量を加算せば要水量は八三八二二
七なりとす

畜産

技手 名 倉 勝

一 種牡牛種付成績

當支場は朝鮮南部に於ける畜牛の改良を圖るの目的を以て畜牛種付の請求に應じたり供用
の種牡牛は明治四十四年十二月平安南道より購入せる朝鮮牛十六頭(現時の平均體重百五十
四貫)にして種付は左記三種の方法に依りて行ひたり

- 一 慶尙兩道各地に巡回せしめて種付を行ひたる事
- 一 大邱に牛市場の開市せらるゝ毎に市場にて牛主の需に應じて種付を行ひたる事
- 一 當支場に於て種付を行ひたる事

右朝鮮牛の外別にシムメンター種牡牛を以て種付をなせり

本年の種付数は千百十七頭にして朝鮮種を以てせるもの千百十一頭シムメンター種を以
てせるもの六頭なり而して種付の方法によりて之を分つときは巡回種付數八百五十六頭市
場種付數二百九頭支場牽付種付數五十二頭に於て之を地方別とせば左の如し

府 名	種付頭數	府 名	種付頭數	府 名	種付頭數
大 邱 府	二六六	金 山 郡	二五	軍 威 郡	二九

勸業模範場支場 大邱支場 畜産

義興郡	星州郡	河陽郡	清道郡	慶山郡	仁同郡	漆谷郡
三五	四	四	五	五	五	二
高靈郡	善山郡	慈仁郡	永川郡	玄風郡	開寧郡	新寧郡
七	五	八	三	三	三	三
合計	居昌郡	慶尙南道安義郡	尙州郡	慶州郡	義城郡	
一〇五七	一	二	二	二	六	

次に巡回交尾毎回の成績を表示すれば左の如し

八	七	六	五	四	三	二	一
回	回	回	回	回	回	回	回
頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
三五	三五	三五	六	六	六	六	一〇
日	日	日	日	日	日	日	日
二	三	二	六	二	二	二	三
數	數	數	數	數	數	數	數
里	里	里	里	里	里	里	里
三	四	三	三	二	二	二	三
程	程	程	程	程	程	程	程
種付數	種付數	種付數	種付數	種付數	種付數	種付數	種付數
二六	二五	一四	六	一〇	二	八	九
平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數	平均一日一頭の種付數
〇・七三三	一・七八八	一・九〇六	一・七五〇	一・四一六	一・四三三	一・〇七七	〇・七〇〇
平均一日行程	平均一日行程	平均一日行程	平均一日行程	平均一日行程	平均一日行程	平均一日行程	平均一日行程
二・六	二・八	二・一〇	二・三	二・〇	二・一〇	二・〇〇	二・五
體量平均増減	體量平均増減	體量平均増減	體量平均増減	體量平均増減	體量平均増減	體量平均増減	體量平均増減
(-)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)
一・六	一・二	〇・三	二・五	三・一〇	七・七	三・八	三・八

平均	五・八七	二・二八	三・〇六	九・八	一・四四	二・三三	(一)	一・五八
----	------	------	------	-----	------	------	-----	------

農民は體形大なる種牡牛を小なる牝牛に交配せしむる時は牝牛をして難産子宮病歴倒による骨折等の害を受けしむとの杞憂を懐くものありと雖軍威郡其他一二郡に在ては農民は其の必ずしも然らざるを了解し自ら進んで種付を請求するもの次第に増加し來れり

二 飼料消費量調査

當地方産牝牛が青草期に於て一日に消費する芻草量を算定せむ爲本調査を行へり其の要項左の如し

供試牝牛は年齢四歳體高四尺一寸八分のものにして牛舎に於て藁草を食せしめざる爲め乾草を唐米袋に充填密閉し以て藁草に代へたり給草は隨時之を與へ可成青草期放牧の状態に近かよらしめたり而して本調査を行ふに先ち前食の影響を避けむ爲豫備飼育を行へり其の結果左の如し

日	次	青草所要量	體	重	備	考
八月二十日		二二四	午后四時秤量	七五〇〇		
二十一日		九一				
二十二日		二一九				
二十三日		二二三				
二十四日		二一〇				

平	二十五日	二十六日	均
	二二九	二二六	八二七〇〇

豫備飼育結了後引續き本飼育を行ひたるに其の成績左表の如し

月次	青草給與量	青草殘食量	所要青草量	給水量	牛糞量
八月二十六日	一四、五	三、〇	一一、五	五、〇	二、〇
二十七日	一四、六	三、二	一一、四	五、〇	二、〇
二十八日	一五、〇	六、〇	九、〇	七、五	二、三
二十九日	一四、〇	二、九	一一、一	一一、三	二、七
三十日	一六、三	四、三	一二、〇	七、七	二、六
三十一日	一三、六	四、七	八、九	七、五	二、九
九月一日	一四、七	四、三	一〇、四	一一、二	二、七
二日	一六、一	五、二	一〇、九	一〇、七	二、八
三日	一四、八	四、八	一〇、〇	一〇、六	二、五
四日	一五、四	五、〇	一〇、四	二、五	二、四
平均	一四、九	四、三	一〇、五	九、〇	二、五

本飼育結了後體重(五日午後四時檢測)を秤量せるに八十貫八百匁にして豫備飼育前と大差な

きを知る即ち青草期に於て當地方産牝牛の消費する青草量は一日十一貫内外なることを認むるを得へし
 三 南鮮牛の調査
 (一) 毛色 朝鮮牛の毛色は赤褐色を第一とし次て黒色黒褐色虎毛籠褐黑白斑灰異野毛色等あり今其百分率を示せば左の如し

毛色別	慶北各地方		軍威郡地方		金山郡地方		密陽郡地方		合計	
	頭數	百分率	頭數	百分率	頭數	百分率	頭數	百分率	頭數	百分率
赤褐色	八六一	八二二	四四九	七九二	四七一	七七六	三五四	六九四	二二五	七、八
黒褐色	九〇	八五	五二	九〇	七六	一一五	六七	一三二	二八四	一〇、三
黒毛(籠)	八五	八一	四九	八六	四四	七二	六三	一一四	二四一	八、八
虎毛	二四	二二	一五	二七	一四	二二	一八	三五	七	二、六
褐色白斑	一	一	三	〇、五	一	〇、二	七	一、四	一一	〇、四
黒色白斑	一	一	一	〇、二	一	〇、二	一	〇、二	四	一、〇

右の内黒褐色牛は體の大部分黒色にして背線に沿ふて褐色を呈するもの多く此毛色を有するものは虎毛を有するものと共に特に體格一般に優秀なるもの多し又蹄冠部に黒毛を有する牛は鼻鏡眼窩周圍の被毛時として例外あり角尖耳内縁の被毛陰唇尾房及蹄は共に黒色を呈するを常とす
 (二) 角形 今各地方に於て得たる不正形角の百分率を掲ぐれば左の如し

角の形状	年 齢		三 歳	四 歳	五 歳	六 歳	七 歳	八 歳	九 歳	十 歳以上
	正 形	不 正 形								
斜外上方に向ふもの										
水平に前方に巻けるもの又は少し上方或は前下方に巻けるもの	八四	二五		八二	五四	七	六四	一九	三	二
横下方に巻けるもの(俗稱鬘垂)										
左右著しく對稱を缺けるもの										
折 傷 又は 角 脱										
故意に尖端を切斷せるもの(鬘垂に多し)										
計	二八	二八	七六%	一七%	二〇%	二八%	三三%	七〇%	九一%	六七%
不正形角の百分率										

備考 横下方に巻ける角形鬘垂は其の形状醜きのみならず内地人の多く歓迎せざるものなり

(三) 前表は牝牛に就て調査せるものにして牡牛は其の角形概ね斜に外上方に向ひ殆んど不正形を認めず而して三歳以上の牝牛は漸次年を加ふるに従ひ不正形の百分率を増加すること前表の示す所に依りて明なり

珠目有るもの
珠目上額に存するもの 一二四頭 一・一三%
珠目下額又は兩眼の間に存するもの 五五二頭 五〇・五%
珠目上額と兩眼の間に二個存するもの 五八頭 五・三%
珠目無きもの 三五九頭 三二・九%

(四) 備考 右の表は牝牛に就て調査せるものなり
鞍傷 今其の百分率を調査せるに左の結果を得たり

牝牛鞍傷表

年 齢	地方別		密 陽 郡	地 方	合 計
	軍 威 郡	地 方			
三 歳	八九	一四	一	五七	一六九
四 歳	七二	二五	九	五三	一五八
五 歳	八一	二五	二〇	三九	一七四
六 歳	一五四	六五	二八	九二	三八六
七 歳	四四	一九	二〇	六四	一七〇
八 歳	三三	一五	二九	四七	一八七
九 歳	二〇	八	三八	五八	一六七
十 歳以上	一九	一〇	五三	八四	一七一
計	一四	一五七%	一	四四%	一六九
	二二	二二	二	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇
	三三	三三	二九	四七	一八七
	三三	三三	三八	五八	一六七
	三三	三三	五三	八四	一七一
	三三	三三	一	五	一〇五%
	三三	三三	九	五三	一五八
	三三	三三	二〇	三九	一七四
	三三	三三	二八	九二	三八六
	三三	三三	二〇	六四	一七〇

年齢	地方別	軍威郡地方		金山郡地方		密陽郡地方		金山郡地方		合計
		總頭數	鞍傷數	總頭數	鞍傷數	總頭數	鞍傷數	總頭數	鞍傷數	
三歳	歳	三三	三	三八	三	二	一	一	六三	二二
四歳	歳	三三	三	三七	三	二	一	一	五〇	一一〇
五歳	歳	三三	三	三二	三	二	一	一	三九	一一〇
六歳	歳	六	二	六一	五	二	一	一	六六	二七五
七歳	歳	五	二	一三	一五	二	一	一	六六	二七一
八歳	歳	一	一	七	九	二	一	一	二五	四〇〇
九歳	歳	一	一	一	二	四	二	一	二	三六四
十歳以上	歳	一	一	一	一	三	三	一〇〇〇	四	七五〇
		總頭數	鞍傷數 <td>總頭數</td> <td>鞍傷數 <td>總頭數</td> <td>鞍傷數 <td>總頭數</td> <td>鞍傷數 <td>計</td> </td></td></td>	總頭數	鞍傷數 <td>總頭數</td> <td>鞍傷數 <td>總頭數</td> <td>鞍傷數 <td>計</td> </td></td>	總頭數	鞍傷數 <td>總頭數</td> <td>鞍傷數 <td>計</td> </td>	總頭數	鞍傷數 <td>計</td>	計
		百分率	百分率 <td>百分率</td> <td>百分率 <td>百分率</td> <td>百分率 <td>百分率</td> <td>百分率</td> <td></td> </td></td>	百分率	百分率 <td>百分率</td> <td>百分率 <td>百分率</td> <td>百分率</td> <td></td> </td>	百分率	百分率 <td>百分率</td> <td>百分率</td> <td></td>	百分率	百分率	

備考 鞍傷の程度は其の大き鶏卵大以上のもの二箇所以上を存するものを算せり
 右の如く年齢を加ふるに従ひ鞍傷數を増加するを見る
 (五) 體尺 各地に於て得たる體尺を年齢及性別を以て示せば左の如し

牝牛體尺表(尺測)

年齢	地方別	慶北各地方(巡回種付)		軍威郡地方		金山郡地方			
		頭數	平均	最高	最低	頭數	平均	最高	最低
三歳	歳	一〇一	三、七二	四〇九	三、三四	八九	三、七七	四〇七	三、三六
四歳	歳	一六六	三、八〇	四、一五	三、六〇	七二	三、八五	四、二七	三、三三
五歳	歳	一四九	三、九一	四、一五	三、五七	八一	三、九七	四、二五	三、六〇
六歳	歳	一七〇	三、九一	四、一五	三、五七	八一	三、九七	四、二五	三、六〇
七歳	歳	一七〇	三、九一	四、一五	三、五七	八一	三、九七	四、二五	三、六〇
八歳	歳	一七八	三、九四	四、二五	三、六七	一〇	三、九六	四、四	三、七三
九歳	歳	六二	三、九七	四、二二	三、七〇	一〇	四、〇〇	四、〇	三、八〇
十歳以上	歳	七七	三、九九	四、二九	三、七八	一九	四、〇〇	四、三二	三、七九
		頭數	平均 <td>最高</td> <td>最低</td> <td>頭數</td> <td>平均 <td>最高</td> <td>最低</td> </td>	最高	最低	頭數	平均 <td>最高</td> <td>最低</td>	最高	最低

年齢	地方別	密陽郡地方		密陽郡地方		密陽郡地方			
		頭數	平均	最高	最低	頭數	平均	最高	最低
三歳	歳	五七	三、七一	四〇三	三、〇〇	二七〇	三、七五	四、〇九	三、〇〇
四歳	歳	五三	三、八三	四、一六	三、五〇	三三四	三、八二	四、二七	三、五〇
五歳	歳	三九	三、八八	四、一〇	三、六〇	三三三	三、八八	四、二五	三、五〇
六歳	歳	九三	三、八八	四、一〇	三、五〇	六七九	三、九三	四、三五	三、五〇
七歳	歳	六四	三、九三	四、一七	三、六〇	三四〇	三、九四	四、三二	三、六〇
八歳	歳	四七	三、九七	四、二五	三、五五	二〇五	三、九六	四、三五	三、五五
九歳	歳	五八	三、九四	四、四五	三、六六	一五四	三、九七	四、四五	三、六五
十歳以上	歳	八四	四、〇三	四、五〇	三、七五	二二二	四、〇一	四、五〇	三、七五
		頭數	平均 <td>最高</td> <td>最低</td> <td>頭數</td> <td>平均 <td>最高</td> <td>最低</td> </td>	最高	最低	頭數	平均 <td>最高</td> <td>最低</td>	最高	最低

備考 慶尙北道軍威郡地方に於て六百十三頭の牝牛に就て調査したる體尺と十字部の高さは殆んど高低なかりき
 牝牛體尺表(尺測)

年 齡	地方別	大邱府地方				軍威郡地方				金山郡地方			
		頭數	平均	最高	最低	頭數	平均	最高	最低	頭數	平均	最高	最低
三歲	歲	二	三八九	三九一	三八七	二二	三九五	四一七	三九五	三六	三七八	四一三	三九五
四歲	歲	六	四〇七	四四七	三七九	二二	四〇七	四三三	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
五歲	歲	二	三八八	三八八	三八七	六	四二四	四四五	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
六歲	歲	三	四二五	四三九	四一八	五	四二五	四四三	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
七歲	歲	二	四四六	四三九	四一八	四	四二五	四四三	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
八歲	歲	一	四二五	四三九	四一八	四	四二五	四四三	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
九歲	歲	一	四二五	四三九	四一八	四	四二五	四四三	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
十歲以上	歲	一	四二五	四三九	四一八	四	四二五	四四三	四一七	三三	三七八	四〇〇	四三三
平均													
最高													
最低													

(六) 體の長 各地に於て得たる體の長を掲ぐれば左の如し

牝牛體長表 (尺測)

年 齡	地方別	慶北各地方(巡回所付)				軍威郡地方				金山郡地方			
		頭數	平均	最高	最低	頭數	平均	最高	最低	頭數	平均	最高	最低
三歲	歲	三六	四二八	四八六	四〇〇	八九	四四二	五〇〇	四〇〇	三三	四六〇	五二〇	四〇五
四歲	歲	八	四五九	五一五	四一〇	七三	四五六	五二三	四〇〇	三三	四七三	五一〇	四三三
五歲	歲	七	四四八	五一八	四二五	八一	四六九	五二五	四三〇	三三	四七四	五一〇	四三三
六歲	歲	一八七	四七二	五三四	四三〇	五四	四八〇	五四〇	四三〇	三三	四八七	五七七	四三〇
七歲	歲	八八	四八五	五二八	四三〇	四四	四七九	五三四	四四〇	三三	四九三	五五〇	四三〇
八歲	歲	六三	四九三	五四五	四三〇	三三	四七七	五三〇	四四〇	三三	四九七	五三七	四六二
九歲	歲	三三	四八九	五三〇	四三〇	一〇	四八一	五〇〇	四四〇	三三	四九四	五三七	四六二
十歲以上	歲	三七	四九三	五四三	四四四	一九	四八二	五二四	四四〇	三三	五〇二	五七〇	四三二
平均													
最高													
最低													

勸業模範地支場 大邱支場 畜産

(七) 牝牛胸圍表 (尺測)

備考 體の長は肩端より坐骨結節に至るまで體側に沿へる斜線を以て測れり
 胸圍 各地方に於て得たる胸圍を年齢及性別を以て示せば左の如し

年齢	軍威郡地方		金山郡地方		密陽郡地方		平均	
	頭數	平均	頭數	平均	頭數	平均	頭數	平均
十歲以上	一九	五九六	五二	五五〇	八四	五四〇	一五五	五四〇
九歲	二〇	五八七	二四	五五八	五八	五三三	九二	五五一
八歲	三三	五五〇	一八	五五三	四七	五三三	八七	五四三
七歲	四四	五三三	六二	五四九	六四	五二七	一七〇	五四一
六歲	一五四	五五五	一四〇	五三六	九二	五二〇	三六	五三七
五歲	八一	五三七	五四	五三五	三九	五二〇	一七四	五三三
四歲	七二	五三三	三三	五二〇	五三	五〇二	一五八	五一五
三歲	八九	五〇八	二二	五二七	五七	四八八	一六九	五〇五
平均		五〇八		五二七		四八八		五〇五
最大		六〇〇		五六四		六二〇		六二〇
最小		四六〇		四七六		四四〇		四四〇

牡牛體長表

年齢	大邱府地方		軍威郡地方		金山郡地方	
	頭數	平均	頭數	平均	頭數	平均
十歲以上	一	五二〇	一	四六〇	一	四八〇
九歲	二	四八三	一	四七〇	一	四八七
八歲	三	四八七	一	四九〇	一	四九七
七歲	二	四八九	一	四九〇	一	四九七
六歲	六	四八五	一	四九〇	一	四九七
五歲	二	四九〇	一	四九〇	一	四九七
四歲	二	四八五	一	四九〇	一	四九七
三歲	二	四二八	一	四五六	一	四六八
平均		四三〇		四五六		四六八
最大		四三〇		四五六		四六八
最小		四二五		四五〇		四五七

牡牛胸圍表 (尺測)

年	地方別	軍威郡地方		金山郡地方		密陽郡地方		平均	
		頭數	平均	最大	最小	頭數	平均	最大	最小
三歲	三	三	五三八	五六〇	五〇三	三	五二五	六二〇	四八〇
四歲	二	二	五五九	六二〇	五二〇	一	五八〇	六〇〇	五二〇
五歲	六	六	五六八	六〇〇	五三八	二	五五五	五九〇	五〇
六歲	五	五	六〇四	六二〇	五六〇	三	五七三	六〇〇	五九
七歲	七	七	六〇〇	六二〇	五六〇	二	五七〇	六〇〇	六二
八歲	六	六	六〇〇	六二〇	五六〇	四	五七七	六〇〇	二
九歲	七	七	六〇〇	六二〇	五六〇	三	五七三	六〇〇	二
十歲以上	一	一	六〇〇	六二〇	五六〇	三	五七三	六〇〇	四
平均									
最大									
最小									

(八) 備考 胸圍は肩胛直後に於て測れり
 以上記載したる平均體尺體の長及胸圍相互の比例を年齢及性に依り見るときは左の如
 き恒數を得べし

年	體尺と體長との比	體長と胸圍との比	體尺と胸圍との比
三歲	1149	1171	1247
四歲	1109	1155	1248

年	地方別	軍威郡地方		金山郡地方		密陽郡地方		平均	
		頭數	平均	最大	最小	頭數	平均	最大	最小
三歲	三	三	五三八	五六〇	五〇三	三	五二五	六二〇	四八〇
四歲	二	二	五五九	六二〇	五二〇	一	五八〇	六〇〇	五二〇
五歲	六	六	五六八	六〇〇	五三八	二	五五五	五九〇	五〇
六歲	五	五	六〇四	六二〇	五六〇	三	五七三	六〇〇	五九
七歲	七	七	六〇〇	六二〇	五六〇	二	五七〇	六〇〇	六二
八歲	六	六	六〇〇	六二〇	五六〇	四	五七七	六〇〇	二
九歲	七	七	六〇〇	六二〇	五六〇	三	五七三	六〇〇	二
十歲以上	一	一	六〇〇	六二〇	五六〇	三	五七三	六〇〇	四
平均									
最大									
最小									

勸業模範地支場 大邱支場 畜産

平壤支場

技師 三宅 鏗 吉

當支場は設置後日尙ほ淺きのみならず本年度廳舎の移轉と共に圃地を變したるを以て從來の成績は未だ之を世に公にするの域に達せず故に唯各作物に就き行ひたる比較栽培の項目を列挙するに止め他日成績の確定せるに至りて詳叙せん

水稻 品種比較 大豆粕用量比較 窒素肥料効驗比較 石灰施用比較 青刈大豆施用法比較 株數對本數比較 直播法比較

小麥 品種比較 窒素肥料効驗比較 過磷酸石灰加用量比較 防寒法比較 畦幅對播種量比較

大麥及裸麥 品種比較 播種期比較

陸稻 品種比較 播種量比較

大豆 品種比較

粟 品種比較 石灰施用比較

高粱 品種比較 過磷酸石灰効力比較 大小豆間作法比較

蕎麥 播種期比較

煙草 品種比較

甘藷 栽植法比較 手入法比較

菊芋 普通栽培

右の外當支場は種豚バーグシャー種及ヨークシャー種を飼養し仔豚の配布をなすと共に當業者の希望に應じ餘勢種付を行ひ又種禽として名古屋コーチン種ブリマウスロック種レックグホン種ミノルカ種を飼育し種禽種卵の配布を行へり

龍山支場

技師 宮原 忠正

原蠶種製造

原蠶種の製造は本年度より開始せり其の飼育撰繭製造等の成績は左の如し

一、春 蠶

供用原種は當支場産又昔及勸業模範場本場産又昔同小石丸の三種にして四月二十五日催青に着手し五月五日掃立を行ひ蠶量總計二十六匁を得之れに據り原蠶種總計二千四百四十二枚を製造せり

飼育中の氣候は概して適順なりしを以て蠶兒の發育頗る良好にして六月五日乃至七日上簇せり今其の成績を示せば左の如し

	飼育日數	室内温湿度		給桑量 (對蠶量匁)	收繭量 (對蠶量一匁)	種繭量	原蠶種 製造數	病毒歩合%
		温度	湿度					
又昔(甲)	三十一日二十二時	七二	六六	四七九〇匁	三七〇七	三六〇	一一四	〇六九
又昔(乙)	三十二日二十二時	七二	六六	五二七二	三六九	一九四〇	六五〇	一〇二
小石丸	三十二日五時	七三	六五	五〇六三	三九〇	三七〇	一六七八	〇六四

備考 又昔(甲)は當支場産(同(乙))は勸業模範場本場産原種なり
 二、夏 蠶
 供用原種は勸業模範場本場産新屋にして六月三十日蟻量五匁を掃立て七月二十二日上簇せ

り
 稚蠶期中は晴天高温にして飼育容易なりしも壯蠶期に入るに及んで雨期に際會し飼育上頗る不便を感じたり然れども幸に蠶兒は能く強壯に發育せり其の成績を示せば左の如し

新屋	飼育日數	室内温度		給桑量		收繭量		種繭量	原蠶種	製造數	病害歩合%
		温度	湿度	對蠶量一匁	對蠶量一匁	對蠶量一匁	對蠶量一匁				
二十二日二時	七	七	七	三六三	三六三	三五四	三五四	五五〇	三三〇	三〇〇	〇〇五

三、秋 蠶
 供用原種は甲乙丙三種の白龍にして何れも長崎縣南高來郡嶋原村産二化性第一化冷蔵種なりとす

飼育中の天候は概して不良にして稚蠶期中は高温陰鬱屢驟雨あり且第四齡盛食期より第五齡の初期に互りては降雨頻繁なりしかば飼育上の不便尠なからざりしと雖も蠶兒は何等の障害を被むることなく強壯に發育し原蠶種總計七百五十二枚を製造せり其の成績左の如し

出穴月日	掃立月日	飼育日數	室内温度		給桑量		收繭量		種繭量	原蠶種	製造數	病害歩合%
			温度	湿度	對蠶量一匁	對蠶量一匁	對蠶量一匁	對蠶量一匁				
七月二十四日	八月三日	二十一	八	八	四〇三	四〇三	三九〇	三九〇	六六〇	二七二	〇六二	
七月二十六日	八月四日	同	八	八	三七	三七	三六三	三六三	九〇〇	二八六	〇五五	

同(丙)	同	同	三十二日	八	八	四〇三	三九〇	四七〇	一九四	〇三七
------	---	---	------	---	---	-----	-----	-----	-----	-----

種類比較

一、春蠶種類比較
 内外蠶種中最も優良と認めべき左記十五種を飼育して其特性を調査せり其の成績左の如し

名	種	飼育日數	室内温度	湿度	給桑量(對一萬頭)	收繭量(對一萬頭)	前年度原種製造者
又	昔	三十二日	七〇六	七〇一	六〇〇五	三三三	朝鮮水原 勸業模範場
又	昔	同	七〇六	七〇一	五九二四	三八九	京都 蠶業講習所
又	昔	同	七〇六	七〇一	六〇〇九	三三四	群馬縣 高山社蠶業學校
印形	昔	同	七〇六	七〇一	六〇一六	三七四	京都 蠶業講習所
改良	昔	三十二日	七〇九	七〇二	五八一四	三〇七	山梨縣 小野元兵衛
小石	丸	三十二日	七〇六	七〇三	五九四一	三六九	朝鮮水原 勸業模範場
小石	丸	同	七〇六	七〇三	五八五四	三四四	東京 蠶業講習所
青	熟	三十二日	七〇七	七〇二	五八九〇	三五二	同
伊達	錦	三十二日	七〇九	七〇二	五八〇九	三四七	福島縣 石幡吉四郎
良	白	四十二日	七〇六	七〇一	六〇二四	三八九	群馬縣 田嶋彌平
中	巢	同	七〇六	七〇一	六〇二九	四〇二	長野縣 小縣郡蠶種同業組合
清	七號	三十三日	七〇八	七〇二	五六〇二	四三四	京都 蠶業講習所
伊太利	白繭	三十三日	七〇六	七〇一	七七一四	六八五	受知縣 縣立農林學校

勸業模範場支場 龍山支場

伊太利黄繭	三十三日	七〇六	六九九	七七八八	五〇四	同	同	同
アルプス黄繭	三十二日	七〇六	七〇二	七五六〇	五四九	同	同	同
甲、飼育容易のもの 一、收繭多く品質優良のもの 又昔水原 伊太利白繭 二、收繭多く品質右に次くもの 青熟 小石丸水原 乙、飼育稍難きもの 一、收繭多く品質優良のもの 卵形又昔 二、收繭及品質右に次くもの 良白 又昔京都 丙、飼育困難なるも收繭及品質共に優良なるもの 伊太利黄繭 アルプス黄繭 二、秋蠶種類比較 左記五種に就き其の優劣を比較せり								
名	挿立月日	飼育日数	室内温度	湿度	給桑量(對一萬頭)	收繭量(對一萬頭)	原種製造者	貯藏風穴
青熟	八月七日	五十三日	七八九	七七三	四六九	三〇〇九	東京蠶業講習所	朝鮮 氷山風穴

青熟大巢	同	二十三日九時	七八九	七七三	四七〇〇	三三六二	同	同
白鶴	同	二十二日二十時	七八八	七七六	四五三三	三八七	同	同
白龍	八月四日	二十二日七時	八〇二	七七二	四九二八	三三〇四	長崎縣小林矩一	長崎縣 湯泉岳風穴
白龍	八月七日	二十二日二十時	八八八	七七六	四三六二	二五一六	京都蠶業講習所	朝鮮 氷山風穴

本年の成績に徴するに各種一長一短あるを免れずと雖飼育收繭絲質等を通して優良なるは青熟とし而して長崎白龍は之れに次くものゝ如し
 此の兩種は共に體質強健にして收繭量多く絲質亦良好なりとす

蠶室・桑園

一部は桑苗圃にして一部は養蠶用桑園なり其の栽培及採苗の方法は前年と大差なし
 本年度植付苗數及其反別は左の如し

種	類	二年苗	無根苗	有根苗	計	植付反別
市平	平	一五五九〇	八〇一一	一六三七八	二五九四四	一六二二五
魯桑	桑	三五三五九	三三三三〇	三六六七〇	六二三四九	三八五一〇
島の内	内	七〇三〇	一〇、四〇〇	五三三三〇	七二〇八〇	四、五二九
十文	文	一九三〇	—	—	一九三〇	一、一〇
計	計	五九八六九	三二二一八	五八二九〇	九五四九五	五九五〇四

備考 本年七月中旬漢江氾濫して桑園全部浸水し桑苗の枯死せるもの多く其の甚しきは

活着歩合三割に過ぎざりき
氷山及び金鳥山風穴

従来大邱支場に屬せる風穴は本年度より當支場に於て管理することとなり本年産蠶種貯藏の狀況左の如し

一、冰山風穴

本年度の夏秋蠶種貯藏数は二千七百二十四枚十三蛾にして其の大部分は二月二十七日に其殘部は三月一日に入穴し貯藏其の他取扱の方法は前年と異なることなし而して風穴内の氣温を見るに二月下旬に於ては平均(一)二、四度(最高一)二、二度、最低(一)三、〇度三月上旬に於て平均(一)一、八度(最高一)一、四度(最低一)二、七度にして爾後漸次氣温の高昇を來せるも七月下旬に於て平均三、一度(最高三、二度、最低二、六度八月上旬に於て平均三、三度(最高三、四度、最低二、八度)に過ぎずして蠶種貯藏上有望なるを認めたり

蠶種の出穴は七月二十日の千〇八十九枚を最多とし之に次くを同月三十一日の八百四十九枚とす其の他は數回に之を行ひたり而して貯藏の成績は佳良にして發生は概ね齊一飼育も亦概して容易なりき發生歩合は最多九六%最少六七四%に達し收繭量は蠶量一匁に對して七月十五日出穴の分平均二斗三舛一合(飼育者十九人七月三十一日出穴の分平均二斗〇五合(飼育者十六人)なりき

二、金鳥山風穴

今尙調査中に屬すと雖夏期の氣温高く其の價値冰山風穴に及はざるものゝ如し故に未だ當

業者の蠶種を貯藏するに至らず

木浦支場

技手 三原 新三

棉作

(一) 氣象

本年棉作期間に於ける氣象は發芽期に於ける降水量の不足と開絮末期に於ける氣温の急降とを除けば氣温日照降水の分配等宜しきを得たりと云ふを得べし即ち其生育期間たる六七、八の三箇月に互り氣温高く日照時間多く加ふるに適度の降雨あり爲めに棉花の發育旺盛なるを得たり次いで開絮期に入り九、十、十一月の三箇月に互り氣温降下したれども日照時間多く且降雨極めて少かりしを以て完全に近き開絮を見るを得たり初霜は極めて早く十月十八日に之を認めたれども殆んど被害なし今棉作期間に於ける各月の氣象を既往八箇年の氣象と對照すれば左の如し

月次	平均		本日		降水量	
	本年	既往八箇年平均	本年	既往八箇年平均	本年	既往八箇年平均
五月	一五、七	一六、〇	二六、四	二八、四	四、〇	八、四
六月	二二、〇	二〇、〇	二五、九	一九、三	四、八	一三、〇
七月	二四、〇	二四、〇	二四、二	一七、〇	一、〇	一三、〇
八月	二五、八	二五、八	二二、五	二五、九	二、七	一四、一
九月	二二、〇	二二、八	二四、六	二〇、〇	二、六	一五、六

勸業模範地支場 木浦支場

十月	一四六	一六二	二七五	二六四	三八九	三九八
十一月	六一	九四	一六〇	一五八	三五二	四二二

二八〇

備考 本表は木浦測候所の観測に依る
 前表に見る如く十月以降気温の急降あるは棉作地方の気温として缺點の一たるを免れずと
 雖も降水の分配に至りては米國に於ける棉作最適地の氣象に髣髴たるものあり本年五六月
 の候に於ける五十耗未滿の雨量は稍不足を告げたるも九月以降四十耗を越へざる如きは頗
 る注目に價するものといふべし此を既往八箇年の雨量に就て見るも略同様の傾向あるを見
 る

(二) 作 況

播種後早天連続したるを以て發芽遅延し點々發芽せるもの亦乾燥の爲め生育不良なるを免
 れず五月末日に至りて初めて發芽揃となり然れども當時蚜虫の害を被りて萎縮する者多
 かりき六月に至りても適量の雨濕を得ず夏至六月二十三日當日の草丈は陸地棉在來棉共に
 二寸内外に過ぎず幸に七月には降雨屢々至り適度の濕氣を得たりしかば作物の勢力一時に
 恢復し爾來生育頗る佳良にして殊に八月上旬には日照時多かりしを以て生長著しく急進し
 枝梗分岐の状態佳良となり斯くて陸地棉は七月二十五日在來棉は同月二十日開花を始め
 爾來摘心除莠芽を行ひ陸地棉は八月中旬盛花期に入り九月四日開絮を始め在來棉は八月上
 旬盛花期に入り八月三十日より開絮を初めたり九月に入りて晴天連續せるため開絮頗る促
 進せられたりしも気温の急降は幼蒴の成熟を遅延せしめたり然れども十月に入り降雨少か

りし爲め開絮狀況は順調にして十月十八日の初霜は見るべき被害を與へず十一月に入り温
 度更に降下し上中旬には數日に亙り寒風吹き荒み且降雪ありし爲め未熟の蒴は多く萎縮せ
 りされど本年は高温寡雨の結果生育促進せられたるにより其被害は僅少なりき
 左に平均收量を表示す

供 試 種 類	反 當 收 量
輸入年度別 キングス、イムブルード六種平均	二五〇三
在來棉 二十六種平均	二三八二

所管地に於ける新輸入陸地棉種子馴化事業

棉種子を原産地より移して異なる風土の下に此を栽培する時は其初年に於て著しき變異
 的狀態(Divergency)を呈し其特質を發揮せざるを常とするが故に陸地棉種子を米國より輸入し
 一般農民に配布するに先ち之を朝鮮の風土に馴化せしむるの必要あり當支場は全羅南道珍
 島郡府内面洞海部内面洞木浦府二老面の三箇所に於て此が馴化の事に従う即ち毎年陸
 地棉キングスイムブルード種を米國より輸入し場員の指導監督の下に之を小作せしめ其
 の生産實績は朝鮮棉業會社をして繰棉せしめ以て種子の散逸を防ぎ所要各道に配布し來れ
 り本年の成績は左の如し

所管地 所在地	所管地 面積	本年度棉作反別	本年生産馴化種子量總計
木浦府 二老面	八五〇(反) 五五(坪)	六六六(反) 二七(坪)	七九九(反) 二〇(坪)

勸業模範場支場 木浦支場

二八一

海南郡門内面	二〇八〇	八八〇
珍島郡府内面	一五二五	九二四〇
合計	四八〇五	二六〇四〇

備考 三所管地共反當收量百八十斤とし繰棉歩合三三%とす
 本年度馴化種子量は總計二万六千餘斤にして之を全羅南道慶尙南北道全羅北道及忠清南
 道に配付せんとす

各道の生産陸地棉販路の紹介

朝鮮に於て陸地棉は本年度全羅南道全羅北道慶尙南北道に互りて二百五十一町の栽培面積
 を有するも以上五道は販路不充分なるを以て當支場は朝鮮棉業株式會社木浦支店と各道の
 間に立ちて賣買契約の斡旋に盡力し生産陸地棉實棉又繰棉の販路を安全ならしめ各旬毎に
 木浦に於ける棉相場を通知し來れり

蘇島支場

園藝

技師 久次米邦藏

當支場に於ける果樹類及蔬菜類の成績概要を述べれば左の如し

果樹

一 苹果 開花結實共に佳良にして各種の一樹に於ける最多結實は四十年に於て一年苗を植
 付たる倭錦の四百四十五個同齡柳玉三百八十個紅紋二百十二個鳳凰卵百七十五個及四十二

年に於て一年苗を植付たる紅冠二百二十個祝二百二個アレキサンダー百四十五個なりき同
 齡柳玉倭錦の如きも一樹結果二百個に及びたるもの稀ならず本年は初夏の氣候適順なりし
 を以て良好の成績を得べき豫想なりしが七月十八日より三日間漢江氾濫し低地は浸水する
 こと地上九尺に及びたるを以て地温下り地中に空氣の缺乏を來し根の生育上に少からざる
 障礙を受け爲めに枝梢の發育中止し加ふるに葉枝に泥土の附着する等種々の障礙を蒙りし
 に因り樹勢衰へ不時の落葉を來し枝梢並に果實の生育上に及ぼしたる影響少からざるもの
 あり尙果實は着色の不良を來したるのみならず落果並に裂果を見ること多く就中熟期に當
 れる中生種祝の如きは慘狀を呈したり而して各種共著しく花芽を損するに至れり

一 梨 日本梨は生育良好開花結實亦佳良にして昨年比し收額著しく増加し四十年植付今
 村早秋の如き一樹多きは六百五十個に達し明月晚三吉の如きも豊産なりき枝條の充實すべ
 き年齢に達するの遅き洋梨は結實尙日本種に及ばず落花の歩合多く花數に比して結實少き
 も四十年植付のラフランスの如き一樹三百七十餘個「ビーバリー」一樹三百二十餘個に達した
 るものあり其他「ローレンス」「セッケル」等の收額も尠からざりき

日本梨は浸水に對する抵抗力強く落果尠かりしも樹勢の多少衰弱するを免れざりしを以て
 花芽を減損するに至りたり洋梨も亦た樹勢衰へ果實の腐敗多く「ロステー」の如きは大部分腐
 敗せるの慘況を呈したり而して各種共花芽の減損甚だしく又た花芽たるべきものも再び秋
 芽として伸長を始めたるを以て明年の結實に及ばず影響大なるべし
 一 葡萄 冬期の氣温比較的溫暖なりしため寒傷少く發芽開花共に良好にして七月の浸水に

も被害少なく生育良好なるを得たり然れども炭化病は初夏の頃より枝端に徴候を現はし漸次蔓延し「グロークロマン」「グロークユローメ」「ボントシエリ」を初め其他十數種に多少の被害あり浸水後一層其度を進めたるを以てボルドー液を撒注し又被袋を用ゐて其害の果實に及ぶを防ぎたり又浸水の爲めには果粒の破裂及腐敗せるもの少からざりしと雖も收量は昨年比して著しく増加し歐洲種にして一反歩收量三百貫に近きものあり「レディーワシントン」及其他米國種に屬するものは一反歩收量六百貫を越えたるもの少からず四十二年佛國より輸入せる種類も本年に入り結實したるもの多かりしが寒氣に弱きアルメリアは終に絶滅に歸したり伊國より輸入したる種類にも開花結實せるものありしが未だ充分なる結果を得るに至らず

一桃 樹勢の強大なる上海水蜜桃の如きは枝幹の生育旺盛開花結實亦極めて佳良にして一樹能く七百餘個を結べるものあり一個百五匁の美果を見たりしは實に稀有の成蹟なりと云ふべし然れども浸水の爲め裂果甚多かりき「アルウェー」及其他洋種に屬するものは上海水蜜桃に比し生育一般に劣り加ふるに六月に入りて蚜虫の發生盛にして青酸瓦斯燻蒸を行なひたる後も樹の衰弱甚だしく落果多く成蹟不良なりき

一李杏類 成蹟は一般に良好にして五月下旬より蚜虫の發生劇甚を極めたるに係らず驅除によりて樹勢を回復し兵庫米桃の如き一樹二千個以上寺田米桃千九百個以上を收穫し得たり

蔬・菜

一馬鈴薯 下種ハ四月十一日に行ひたるが「アザンスタ」種の他は何れも發芽良好にして順當なる發育を遂げ成蹟良好なりき然れども充實期に於ける浸水は塊莖の腐敗を來し爲めに著しく收量を減少し品質亦不良にして收量の最多なり「アローローズ」種の如きも一反歩五百二貫に過ぎず而して「グリーンマウンテンシカゴマーケット」種の四百五十貫之れに次ぎ「ミヨットアスリーフキドニー」種は僅に六十九貫に達したるのみ

一甘藷 四月一日及同十二日に下種同十五日及同廿四日に發芽し五月十日より六月七日までに順次苗の挿植を行ひ七月十八日より九月三日までに三回の蔓返しを行ひ十月二十三日より同二十四日までに收穫したり挿植後活着頗る佳良にして發育旺盛を極めたりしが七月に於ける浸水の爲め多塊根の充實悪しく昨年比し何れも減收せり一反歩の收量は潮州の八百六十餘貫を最多とし元氣種四十日種順次之れに次げり

一薯蕷 四月二十日下種五月六日發芽し何れも生育旺盛を極めたりしが浸水によりて生長を妨げられ充分の發育をなさざりき收穫は十月三日乃至同二十日にして其結果は「兵庫」の一反歩收量二百四十餘貫最大一個重量五百六十匁を最上とし伊勢イチョ薯長等順次之れに次げり昨年比すれば何れも收量を減じたり

一里芋 五月五日の下種にして時期稍遅れたりと雖も發芽後は時々降雨ありしを以て生育良好成蹟佳良なりき十月下旬收穫の結果は早生團子の一反歩收量五百三十貫を第一位とし島芋赤芽葦芋唐芋早生土垂順次之れに次ぎ八つ頭の百九十七貫を最下位とす

一茄子 三月四日及同二十五日の下種にして發芽何れも齊一なり三月四日下種の分は五月

二十一日降雨を待ちて移植を行ひしかば活着佳良發育旺盛を極めたるが七月に至り全部浸水の厄に會し著しく生育を妨げられたり最初の收穫は早生蔓細千成及晩生山茄子にて六月二十四日に始まり各種共十月廿三日に收穫を終れり晩生山茄子一反歩收量九百二十二貫三百八十匁四万五千四百十六顆平均一顆重量二十匁にして「ブラツクビユータイ」河國黒圓清國大長順次之れに次ぎ早生蔓細千成一反歩收量六百六十六貫六百三十九匁三万七千三十四個平均一顆重量十六匁を最下とし一般に充分の成績を擧ぐることは能はず

一胡蘿蔔 六月一日に條播し十月二十一日より十一月一日まで收穫したり發芽後生育頗る良好にして發育旺盛なりしが浸水の結果枯死するもの多く「三寸」の一反歩六百九十三貫六百匁第一位を占め札幌太「アーリーシヨートホーン」西洋大長順次之れに次ぎ東京大長は一反歩四百八十三貫五百匁にして收量最も少く一般に收量を減少したり

一「リーキ」下種期は三月廿四日より二日間苗床は冷床にして苗能く揃ひ六月十七日に移植せり移植後も亦發育頗る良好なりしが浸水により著しく生育を害し低位地のは多少腐敗せり故に成績稍不良なり「モンストロスカランタ」種第一位を占め一反歩收量三百六十九貫四百三十二匁白莖平均長九寸五分にして「リオチスト」「サットンスローヤルフエボリット」「サットンスプライズテーカー」順次之れに次げり

一葱 下種期は三月二十三日發芽何れも良好苗の生育も亦良好にして六月十七日移植し生育佳良發育旺盛なりしも「リーキ」と同じく著しく浸水の害を蒙り根深種一反歩僅かに四百四十貫下仁田種一反歩二百二十一貫二百七十三匁の收量に過ずして不良なる成績を擧ぐるに

至れり

- 一蘿蔔 「聖護院」は七月十二日「練馬」は八月七日に下種したるが適度の濕氣ありしたため發育齊一生育旺盛を極め聖護院種の如き一株二貫匁に及び一反歩四千四百貫に達したり又練馬は一千二百八十六貫餘の收穫を得たり
- 一蕪菁 八月七日に下種し發育頗る良好生育旺盛を極め十月二十日より十一月七日に互る收穫の結果を見るに聖護院種一千八百九十貫餘近江種一千五百四貫餘にして近年稀なる好成绩を得たり

元山出張所

事務概要

技手 小森 園 清 治

當出張所は本年の創設に係り北鮮地方に於ける園藝を發達せしめむことを目的とす其位置は元山府内面邑里にあり元山市を距る一里半にして咸元及平元兩道路の分岐點に位し地形平坦にして東は永興灣に臨み西は馬息岑を負ひ南は陽日川を隔て、連山横はり北亦丘陵に接せり土質は表土砂質壤土にして深さ一尺乃至三尺に及び下層土は粘土あり粘質壤土あり又砂土ありて一定せず今用地内四箇所に於ける表土の洗滌分析の結果を記せば左の如し

石				
礫				
	甲	乙	丙	丁
	%	%	%	%

勸業模範場支場 元山出張所

表土中細土	100.000	100.000	100.000	100.000
四乃至三耗	0.350	0.143	—	—
三乃至二耗	0.106	0.398	0.350	0.366
二乃至一耗	7.575	1.418	2.240	3.554
一乃至〇、五耗	2.648	4.506	5.036	7.852
〇、五乃至〇、二五耗	2.096	4.046	4.266	5.752
〇、二五耗以下	4.896	7.055	6.914	8.556
粗粘土分	1.526	1.894	1.894	2.204
砂分合計	8.464	8.796	8.206	7.796
原土中細微土	7.540	9.355	9.284	8.828
細土中細微土	7.540	9.355	9.284	8.828

土壤の反應は左の如し

試驗紙法	中	中	中	微アルカリ性
鹽化加里液法	中	中	中	微アルカリ性
	甲	乙	丙	丁

本年度は苹果としては紅玉百二十八本柳玉四十本倭錦四十本、オートレー七十本國光五本、梨

としてはバートレット百五十本晚三吉八十七本明月四十本ビーバリー十五本、フレミッシュ
 ビューチー五本ウキスターバートレット五本葡萄としてはブラツクハンブルグ十本を植付
 けたり
 蔬菜は蘿蔔蕪菁白菜其他數種を試作せるも未だ其成績を發表する時機に至らず

大正二年三月廿三日印刷
大正二年三月廿六日發行

(非賣品)

朝鮮總督府勸業模範場

(朝鮮京畿道水原)

京城本町六丁目二十五番地

印刷者 森田萬吉

京城本町六丁目二十五番地

印刷所 大和商會印刷部

M. 21
210

大正二年三月廿六日發行
大正二年三月廿三日印刷

澤田氏音韻學研究

澤田氏音韻學研究
澤田氏音韻學研究
澤田氏音韻學研究

1421
310

終